

平成29年定例会  
戦略企画雇用経済常任委員会  
説明資料

◎ 所管事項説明

- (1) 国際展開の取組状況について . . . 1
- (2) 雇用対策の推進について . . . 3
- (3) 三重県新エネルギービジョンの取組状況について . . . 19
- (4) 「高度部材イノベーションセンター（AMIC）」の今後の取組方向について . . . 23
- (5) みえリーディング産業展2017の開催結果について . . . 27
- (6) 企業誘致の推進について . . . 29
- (7) 観光振興について . . . 41
- (8) 各種審議会等の審議状況の報告について . . . 47

◎ 報告事項

- (1) 首都圏営業拠点「三重テラス」について . . . 49

平成29年12月13日

雇用経済部

## ◎所管事項説明

### (1) 国際展開の取組状況について

#### <知事のベトナム・タイ訪問>

平成29年11月13日(月)から11月17日(金)にかけて、熊野市長、大紀町長をはじめとする三重県市町村振興協会、製造業や観光業をはじめとする県内事業者、大学、四日市港利用促進協議会とともに、100名を超える経済交流ミッション団を組織し、ベトナム(ホーチミン市)とタイ(バンコク都等)を訪問しました。

ベトナムではホーチミン市人民委員会リエム常務副委員長と、タイではソムキット副首相をはじめとする経済・産業政策を所管する閣僚等と会談し、県内企業のビジネス拡大に向けた相互協力等について意見交換を行いました。

また、食の販路開拓、観光誘客促進及び四日市港の利用促進に係るトップセールスを行いました。

#### (1) 政府関係者との会談

ベトナムではホーチミン市人民委員会リエム常務副委員長と会談し、県内企業のビジネス拡大や観光について意見交換を行い、相互に協力することで合意しました。

日タイ修好130周年を迎えたタイでは、ソムキット副首相やウッタマ工業大臣、ドゥアンジャイ投資委員会(BOI)長官など、タイの経済・産業政策を所管する閣僚等と会談しました。

ソムキット副首相との会談では中小企業に重点をおいた取組や人材育成の促進について引き続き相互に協力することで合意したほか、みかんの輸出に係る検疫手続きの緩和の協力を要請しました。また、ドゥアンジャイ投資委員会(BOI)長官との会談では、さらなる相互協力に向け、現在締結している覚書(MOU)の改定を進めることについて合意しました。

引き続き、県内事業者とタイ企業との産業連携の促進により、中小企業の育成をめざすタイ産業の高度化に寄与するとともに、県内事業者のビジネス拡大につなげていきます。

#### (2) 食の販路開拓及び観光誘客促進に係るトップセールス

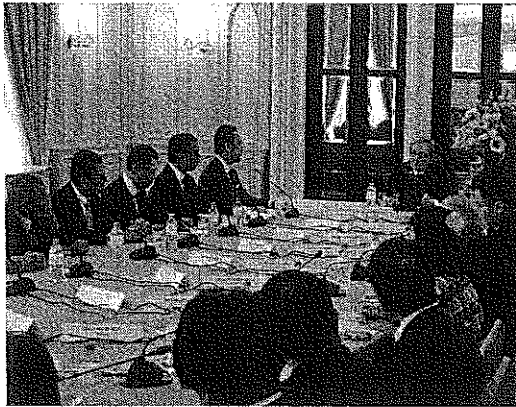
ベトナムでは初めてとなる「三重県フェア」をイオンモールタンファーセラドンで開催しました。また、タイではバンコク最大の商業銀行であるバンコック銀行の富裕層顧客をターゲットにした三重県PRセミナーの開催や、タイで最大級のピアホール運営会社での県産品のトップセールスなど、日本の自治体では初めてとなる取組を行いました。いずれにおいても、現地参加者からは三重の食に対する高い関心が示されたところであり、引き続き県産品の輸出促進につなげていけるよう、関係者に対してフォローアップ等を図っていきます。

観光誘客促進では、ベトナムで日本政府観光局(JNTO)と連携し、現地旅行会社7社に対して三重の魅力を発信しました。タイでは、三重県観光セミナー・商談会においてオール三重での情報発信を行ったほか、「三重県海外観光特使」を委嘱しているトランザ・グループ社長との会談において本県の観光資源や食の強みと魅力についてPRを行うなど、タイから本県への旅行商品の造成促進を図りました。

### (3) 四日市港のポートセールス

ベトナム全体のコンテナ取扱量の約半分を取り扱うコンテナターミナル運営会社である、サイゴン・ニューポート・コーポレーション社を訪問し、四日市港とベトナム間のコンテナ航路の充実等について意見交換を行いました。

また、四日市港利用促進協議会が開催した四日市港セミナーでは、100名を超える荷主関連企業や船会社等関係者が参加した中で、四日市港の物流ネットワークの強み等をPRしました。今回の四日市港のポートセールスを受け、サイゴン・ニューポート・コーポレーション社から協議会に対して、三重県でのセミナー開催の提案があり、今後具体化に向けた検討が進められることとなります。



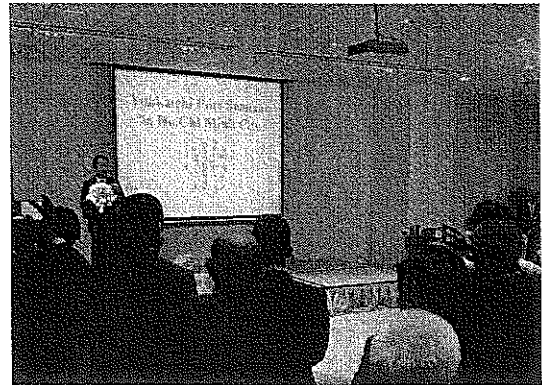
ソムキット副首相との意見交換



三重県PRセミナー



ベトナム旅行会社への  
プレゼンテーション



四日市港セミナー

## (2) 雇用対策の推進について

### 1 若者の県内へのU・Iターン就職の促進について

大学等への進学を希望する高校3年生に対し、メールマガジンの登録を促し、将来の就職活動に向けて情報提供を行うほか、県外でのU・Iターン就職セミナーの開催、おしごと広場みえにおけるU・Iターン支援などを行っています。

また、就職支援協定締結大学の学生等に対し、協定に基づき、様々な働きかけを行うとともに、魅力的なインターンシッププログラムを実施し、若者のU・Iターン就職の促進を行っています。

### U・Iターン就職促進策について (イメージ)

高校生	大学生等	社会人
<b>啓発メールマガジン登録</b>	<b>就職支援協定締結大学への働きかけ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者説明会への参加</li> <li>・インターンシップ参加促進</li> <li>・セミナー、合同イベント(知事講演会等)</li> <li>・メルマガ配信</li> </ul>	
	<b>おしごと広場みえを拠点とした支援</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職相談、キャリアコンサルティング</li> <li>・模擬面接、グループディスカッション</li> <li>・就活セミナー、企業とのマッチング</li> <li>・情報発信(みえの企業まるわかりNAVI、セミナー情報等)</li> <li>・U・Iターン就職支援アドバイザーによる中部・関西圏の大学訪問、情報交換</li> </ul>	
	<b>インターンシップの実施</b>	
	<b>企業研究セミナー</b>	
	<b>就職セミナー</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ええとこやんか三重 移住相談センター(東京)でのセミナー</li> <li>・大阪、京都、名古屋での就職相談、セミナー</li> </ul>	

### (1) 就職支援協定締結大学を中心としたイベント等の開催

#### ①就職支援協定締結校の状況 (現状)

平成27年度		平成28年度		平成29年度	
締結日	学校名	締結日	学校名	締結日	学校名
H28. 2. 8	立命館大学	H28. 8. 5	同志社大学	H29. 11. 6	愛知工業大学
H28. 3. 1	近畿大学	H28. 8. 22	関西大学	H29. 11. 16	金城学院大学
H28. 3. 2	龍谷大学及び 龍谷大学短期 大学部	H28. 10. 17	愛知学院大学		
		H28. 11. 2	中部大学		
		H29. 2. 9	愛知大学		

#### ②メールマガジンの発行

協定締結大学の学生に県内外で開催される就職セミナー等の案内を発信。

#### ③知事講演会の開催

今年度の予定：中部大学(12月)、愛知学院大学(2月)で開催。

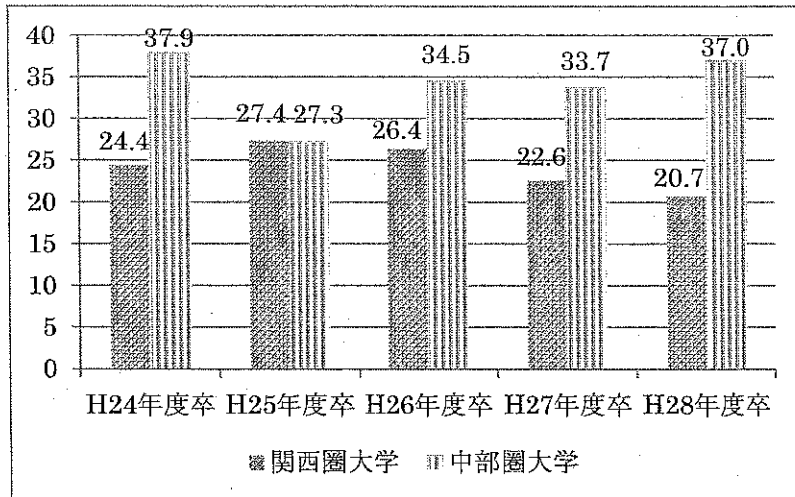
#### ④保護者説明会、U・Iターン説明会等への参加

○保護者説明会：県内開催5回、県外開催3回(平成29年12月2日現在)

○U・Iターン説明会等

三県一市(静岡県・岐阜県・三重県・浜松市)合同による東海地区U・Iターン交流会&業界説明会ほか 年5回開催

## 三重県へのUターン就職率の推移 (就職支援協定締結大学調査結果より)



### (2) インターンシップの促進

大学生のインターンシップの実施ニーズは増加しているにも関わらず、三重県内企業におけるインターンシップの実施率は15.4%と東海3県で最下位というデータがあります。(全国37.6%：2018年卒マイナビ調査より)

このため、就職支援協定締結大学や県内商工団体等からなる「三重U・Iインターンシップ推進協議会」の場を活用し、県内企業の協力を得て、学生と相互に意義のあるインターンシップに取り組み、その成果を共有することで、県内企業への普及拡大と学生の利用促進を図ります。県内外大学の学生が県内企業でのインターンシップを実施する中で、学生等の就職意識を高めるとともに、現場で働く魅力を体感することで県内企業への定着促進につなげます。

#### ① 三重U・Iインターンシップ推進協議会の開催

<第1回 平成29年6月7日>

議題 県内外大学等の取組、今年度の事業予定 他

##### 【主な意見】

- ・学生は知名度の高い企業のインターンシップを希望する一方で、内容が魅力的であれば知名度に関わらず参加する。
- ・モデル的な事業の成果を普及啓発することが受入企業の増加に寄与。

<第2回 平成30年1月(予定)>

議題 学生のインターンシップの受け入れ窓口の整理について  
企業及び学生の参加数の増加につながるプログラムについて

#### ② インターンシップ実績 (夏休み期間中) ※三重U・Iインターンシップ事業実施分 参加企業数：37社、参加学生数：12大学40名 (うち県外大学9校17名)

期間および類型	日数
短期インターンシップ	【見学型】現場見学、経営者との交流 1～3日間
中期インターンシップ	【体験型】課題を持った就業体験中心 1～2週間
長期インターンシップ	【課題解決型】新規開拓事業など企業が抱える課題の解決、企画・提案等 1か月以上

### 【特色】

コーディネーターを配置し、企業・学生からの相談にきめ細かく対応するとともに、学生、企業に対する事前研修、事後研修を実施し、より効果的なインターンシップとなるよう努めています。

### 【参加学生の声】

- ・地元でも世界と戦える企業があることを知った。
- ・一日で数社訪問することができ、就活においても希望する範囲（業種）を広げようと思った。
- ・「三重県で働きたい」という気持ちがより強くなった。

### 【参加企業の声】

- ・学生目線でのイベント企画を実施することができた。
- ・入社1年目で学生に指導する中、改めて色々と学び直しができた。
- ・学生と向き合うことにより、自社の不足点を再確認できた。

### ○今後の取組

冬・春季(平成30年1～3月)短期～長期インターンシップを実施予定。

### ③インターンシップフォーラムによる普及啓発

○日時：平成29年12月7日（木）（四日市市）

○概要：学生と企業双方にとって効果の高いインターンシップの取組成果等について共有し、大学関係者及び企業に対する意識啓発を実施

### 【主な意見】

- ・大学等では学生の参加意義を理解し、企業では経営者や学生を指導する者が実施の意味を理解する必要がある。
- ・インターンシップの目的を明確にし、産学官民が連携して取り組む必要がある。

### (3) U・Iターン就職セミナー等の開催

東京・大阪・京都・名古屋、県内において、県内企業の魅力発信などの企業研究セミナーや企業と若者のマッチングイベントなどを含めた就職セミナーを開催しています。また、「ええとこやんか三重 移住相談センター」（東京都）では、就職支援アドバイザーが大学生や社会人に対して、就職相談などを実施しています。

### 【取組実績】

○東京：平成29年6月、7月、11月開催

○三重：平成29年8月、12月（予定）開催

○大阪、京都、名古屋は各1回、2月に開催予定

※大阪については、三重県と広島県の合同開催を予定。働き方改革や女性活躍、子育て支援等に積極的に取り組む企業の参加、両県知事によるトークセッション、学生との交流会を開催。

○ええとこやんか三重 移住相談センターでの就職相談件数：113件(平成29年10月末)

### (4) 今後の取組について

県外大学との就職支援協定の締結により、大学キャリアセンター（就職支援担当窓口）と県との間で事業スケジュール等の情報共有・連携が深まり、インターンシップ、就職セミナーへの学生の参加促進や大学との共同イベント等の実施につながっています。

今後もキャリアセンターと連携して、三重県内での就職をアピールできる場づくりなど、より効果的な対策が講じられるよう取組を進めていくほか、県内企業におけるインターンシップの取組促進、関係機関と連携したU・Iターン就職支援に取り組んでいきます。

## 2 障がい者雇用の促進について

### (1) ステップアップカフェ「Cottic菜」について

平成26年12月24日にオープンしたステップアップカフェ「Cottic菜」は、オープン以来の総来店者数が今年の11月末時点で8万人を超えました。また、「Cottic菜」は、雇用契約に基づく一般就労の職場であり、これまでに、スタッフの中から3人の障がい者が新たな一般就労の職場へステップアップしました。職場実習、視察等の受入も積極的に行っています。

#### ①ステップアップ大学

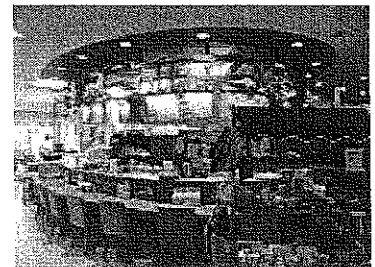
障がい者との交流の取組として平成28年12月に開校した「ステップアップ大学」では、毎月第2金曜日(18:30~19:30)に「Cottic菜」の店内等で「授業」を行い、県内企業で働く障がい者が、仕事のことや就職するまでのこと、普段の生活のことなどを話し、参加者からの質問にも答えています。

#### ②Cottic菜3周年祭×こころのバリアフリー推進イベント

12月23日(土・祝)に、県総合文化センター「フレンテみえ」で3周年記念のイベントを開催します。障がいに対する理解を深めるための「こころのバリアフリー推進イベント」(健康福祉部主催)と連携し、より多くの企業や県民の皆さんに向け情報発信することにより、障がい者雇用についての理解を深めることとしています。

##### 【主な内容】

- ・フォーラム(Cottic菜からの発表、講演等)
- ・障がい者スポーツ体験(ボッチャ、車いすスラローム等)
- ・ヒューマンライブラリー(障がい者との対話)
- ・Cottic菜3周年特別バイキング
- ・マルシェ(障がい者就労支援事業所の商品販売、農・林・水福連携事業の紹介等)



### (2) 雇用促進の取組について

#### ①三重県障がい者雇用推進企業ネットワーク

登録企業数は、平成29年12月1日現在、218社となっています。毎月のメールマガジンによる情報提供や、障がい者雇用に積極的に進めている企業の見学会の開催、企業・福祉・特別支援学校の関係者が参加する「産・福・学」障がい者雇用情報交流会の開催などにより、企業間等における情報交換や交流を進めています。7月に企業見学会(1企業)、8月に情報交流会(2会場)を開催し、多くの企業・団体等から参加していただきました。

##### 【参加企業の声】

- ・見学した企業の取組を見て、自社でも同様の仕事を任せられないか検討したい。(企業見学会)
- ・様々な事例を聞くことができた。(情報交流会)
- ・企業や支援機関等と繋がりができるきっかけとなった。(情報交流会)

## ②関係機関と連携した雇用促進の取組

三重労働局等の関係機関と連携し、就職面接会や障がい者雇用促進セミナーの開催、障がい者雇用優良事業所の表彰などを行い、障がい者の雇用及び職場定着の促進に取り組んでいます。

## (3) 障がい者雇用・定着実態調査の結果（速報）について

平成29年6月から7月まで、県内約11,000事業所を対象に「平成29年度三重県障がい者雇用・定着実態調査」（従業員5人以上の事業所を対象に郵送したアンケート調査）を実施しました。

### ①調査の概要

目的：県内の事業所における障がい者の雇用・定着の実態を把握することにより、今後の施策実施にあたっての基礎資料とする。

調査時点：平成29年6月1日

回答件数：5,546件/10,985件（回答率50.5%）

### ②調査結果の概要

#### ア 障がい者の雇用状況について

- ・ 障がい者を雇用している事業所は、全体の23.1%で、概ね5社に1社の割合。業種別では、「製造業」31.3%、「医療、福祉」19.0%の割合が高く、次いで「建設業」11.7%、「サービス業」8.6%。
- ・ 雇用されている障がい者の年齢層は、「50～59歳」が最も多く、次いで「40～49歳」、「60歳～」。年齢層が高くなるほど身体障がい者の占める割合が高い。

#### イ 障がい者雇用にあたっての課題について

- ・ 障がい者の雇用を検討する上での不安な点（課題）については、障がい等の種類に関わらず、約5割の事業所が「社内に適当な仕事があるか」と回答し、最も割合が高い。次いで「職場の安全面の配慮が適切にできるか」、「従業員が障がい特性について理解することができるか」、「採用時に適性、能力を十分把握できるか」。

#### ウ 障がい者の職場定着について

- ・ 平成26年度中に採用された障がい者の29年6月1日現在の在職状況については、知的障がい者の在職率が69.9%と最も高く、次いで精神障がい者が58.8%、身体障がい者が58.3%。一方、「在職1年未満で離職」した障がい者の割合を見ると、精神障がい者は21.0%と最も高く、身体障がい者の12.1%、知的障がい者の9.2%に比べ、早期離職の割合が高い傾向。
- ・ 現在障がい者を雇用している事業所において、障がい者を雇用して良かったことは、「障がい者の働く姿などが他の従業員の仕事への刺激になった」が28.6%で最も高く、「能力をうまく活用することで生産性が向上し、戦力アップになった」が21.5%、「雇用に際して業務内容の見直し等を行い、効率化できた」が17.6%。

#### エ 障がい者の離職状況について

- ・ 平成26年4月1日から29年3月31日までの期間に採用され、29年5月31日までの期間に離職した障がい者の離職理由は、「転職」が15.3%と最も高く、次いで「仕事が合わなかった」が15.2%。

今回の調査結果をふまえ、県内の民間企業における障がい者の雇用及び職場定着の推進につなげられるよう、三重労働局等の関係機関と連携して、障がい者雇用に関する理解促進や企業等への支援に取り組んでいきます。





ステップアップカフェ

# Cotti菜3周年祭

## こころのバリアフリー推進イベント

12月23日(土・祝)  
10:00~15:00

三重県総合文化センター  
男女共同参画センターフレンテみえ  
津市一身田上津部田1234

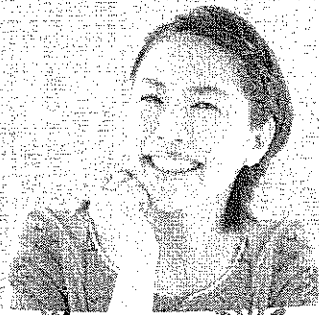
### こころのバリアフリーフォーラム

10:00~12:00 多目的ホール

参加無料・事前申込制・定員350名

#### 奥山佳恵さん(女優・タレント)

1974年東京都生まれ  
1992年主演女優としてデビュー以降、ドラマ、バラエティー番組などで活躍  
2001年に結婚、2011年には長男に続き次男・美良生(みらい)くんを出産  
その後、美良生くんがダウン症であることが判明する  
2015年には美良生くんの育児日記を初公開したエッセイ「生きてるだけで100点満点!」を発売  
現在、女優・タレント活動の他、ダウン症への理解を広める講演活動などを精力的に行っている



10:00~10:03 知事挨拶  
10:03~10:20 Cotti菜 取組紹介  
10:20~10:30 障害者差別解消法って?  
10:30~12:00 奥山佳恵さん講演

## 「生きてるだけで100点満点!」

※手話通訳、要約筆記あり  
フォーラムへの参加および託児の申込みについては裏面をご覧ください。(定員になり次第申込みを締め切ります。)

### 障がい者スポーツ体験

13:00~15:00 多目的ホール

事前申込不要



#### ●ボッチャ体験

目標のボールに向かってボールを投げて、どれだけ近づけられるかを競う競技です。  
来年3月には日本で初めてボッチャの国際大会が伊勢市で開催されます!

#### ●車いすスラローム体験

車いすに乗って赤・白のボールを目印に前進後退を繰り返しながら走行タイムを競う競技です。

#### ●缶バッジづくり体験

自分だけのとこまる缶バッジで、みえの障がい者スポーツを応援しよう!

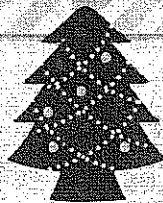


### クリスマスケーキ作り

10:00~15:00

生活工房 連合三重主催イベント

障がい者の皆さんと連合三重女性青年委員会との交流イベントです。



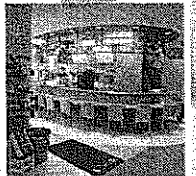
### 3周年記念特別バイキング

11:00~15:00 Cotti菜

自家農園の野菜をふんだんに使い、全て手作りのカフェです。

小学生以下500円 中学生以上1,500円  
(フリードリンク代含む)

※この日はお席の予約は受け付けませんが、席を増設します。どうぞおこしく下さい。



### ヒューマンライブラリー

13:30~15:00 2階セミナー室A

当日予約制

県内で働く障がい者4人の方を“本”になぞらえ30分借りて対話をする企画です。三重県初開催!詳しくは裏面をご覧ください。

### マルシェ

10:00~15:00 エントランス

県内の障がい者就労支援事業所等の手作りの食品や雑貨が大集合!こだわりの一品が見つかるかも。出展一覧は裏面にあります。

主催 三重県  
お問い合わせ

フォーラム・スポーツ体験

上記以外

健康福祉部障がい福祉課企画・社会参加班

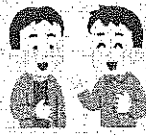
電話059-224-2274 FAX059-228-2085 メールshoho@pref.mie.jp

雇用経済部雇用対策課障がい者雇用班

電話 059-224-2510 FAX059-224-2455 メールkoyou@pref.mie.jp

# ヒューマンライブラリー

ヒューマンライブラリーとは、図書館にある「本」のように多様な個性・価値観を持った人と、少人数で話すことで新しい価値観に出会い、考える機会を作る対話型イベントです。今回は、4人の県内で働く障がい者の方が「本」です。



## 4人の「本」の紹介



**日間賀 恵子さん(難聴)**  
社会福祉法人和順会勤務

「年齢、性別、障がい不詳、怪しさ満載、楽しさ満載！」

**濱野 彰浩さん(視覚障がい)**  
三重県立盲学校勤務

「人生これはこれで」



**村田 浩之さん(脊髄小脳変性症)**  
住友電装株式会社勤務

「障がいはあっても書のないおじさんです」

**稲葉 智大さん(アスペルガー症候群)**  
ホームセンター勤務

「考えることは苦手ですが、自分なりになんとか頑張ります」

### ★「本」の借り方★

- ・1階エントランス内受付で13:00から予約受付を始めます。
- ・1人の「本」につき同時に3人まで、30分間借りる(対話をする)ことができます。
- ・貸出時間は、1回目(13:30～14:00)、2回目(14:15～14:45)
- ・貸出予約時間の5分前までに会場のセミナー室Aの前に来てください。スタッフが中へご案内します。
- ・借りた人から「本」の方へ質問も可能です。
- ・当日は手話通訳・要約筆記を配置していますが、ご希望の方は、事前に表面の問い合わせ先にご連絡いただくとありがたいです。

## マルシェ 出展事業所

- 希望の園(Tシャツ、ポストカード、エコバッグ)
- クローバーハウス(シフォンケーキ、クッキー、缶詰パン)
- こいしらの里(陶芸作品、黒ニンニク、シカ肉ジャーキー(犬用))
- 呼夢・フレンズ(焼菓子、石けん、押し花カード)
- すずわ(多肉植物、正月・クリスマス商品、マグネット)
- ピアサポートみえ(サンドウィッチ、ジュース)
- ベルフレンド(プラスチックカゴバッグ、指編みマット)
- ミュージラボ伊勢(アクセサリ、文具、イラスト入りマグカップ)
- 向野園(クッキー、チーズケーキ、生チョコケーキ)
- 工房やまの風(手漉き和紙、押し花カレンダー、手漉きハガキ)
- 三重県聴覚障害者協会(手話体験ブース)

### 農・林・水福連携事業紹介

三重県では、農林水産業分野での障がい者の新たな就労場の創出につながるよう、福祉事業所の農業参入などを進めています。  
パネル展示のほか、海産物や野菜などの販売もあります。



### 手作りブランド M.I.E(ミー)販売

県内4つの障がい者就労支援事業所で作った手作り雑貨ブランドです。  
手織りの1点もののバッグ、ストールなどを販売します。



## フォーラム・託児サービス申込み方法

講演会への参加および託児サービスの利用を希望される場合は、事前の申込みをお願いします。\*託児は12月11日(月)締切  
WEBの場合: <https://www.shinsei.pref.mie.lg.jp/uketsuke2/dform.do?acs=kokobari> の申込みフォームから  
FAXの場合: 下記申込書に必要事項を記入の上、059-228-2085 まで FAXを送付してください。

参加申込  
サイトはこちら



フリガナ お名前				講演会 参加人数	人
電話番号 *1	( ) - ( ) - ( )	( ) (FAX希望)	E-mail *1		
託児 *未就学児対象	あり・なし ( ) 人	お子様の お名前・年齢	※ 月齢まで記載してください	託児希望 時間帯	<input type="checkbox"/> 午前(講演会等) <input type="checkbox"/> 午後(ヒューマンライブラリースポーツ体験)
その他配慮が必要な点があればご遠慮なくお申出ください					
<input type="checkbox"/> 車いす使用 <input type="checkbox"/> 手話通訳 <input type="checkbox"/> 要約筆記 <input type="checkbox"/> 赤外線補聴援助装置 <input type="checkbox"/> その他( )					

\*1 本イベントに関する緊急の連絡は、原則メールでお知らせします。なお、FAXでの連絡を希望される場合は、電話番号欄にFAX番号を記入いただき、FAX希望に☑を記入してください。  
\*2 ご記入いただいた個人情報、本イベントに関する連絡の管理・連絡以外の目的に使用することはありません。なお、お預かりした個人情報は、三重県個人情報保護条例に基づき適切に管理します。

平成 29 年度三重県障がい者雇用・定着実態調査（速報）

I 調査実施概要

1. 調査目的 県内の事業所における障がい者の雇用及び定着の実態を把握することにより、平成30年4月以降の障害者雇用率制度の改正を踏まえ、今後の県における障がい者雇用及び定着を促進する施策のための基礎資料を得ることを目的とする。
2. 調査対象 県内民間事業所 約 11,000 事業所
3. 調査時点 平成 29 年 6 月 1 日
4. 調査実施期間 平成 29 年 6 月 8 日～平成 29 年 7 月 25 日
5. 調査方法 郵送アンケート調査

6. 回答結果

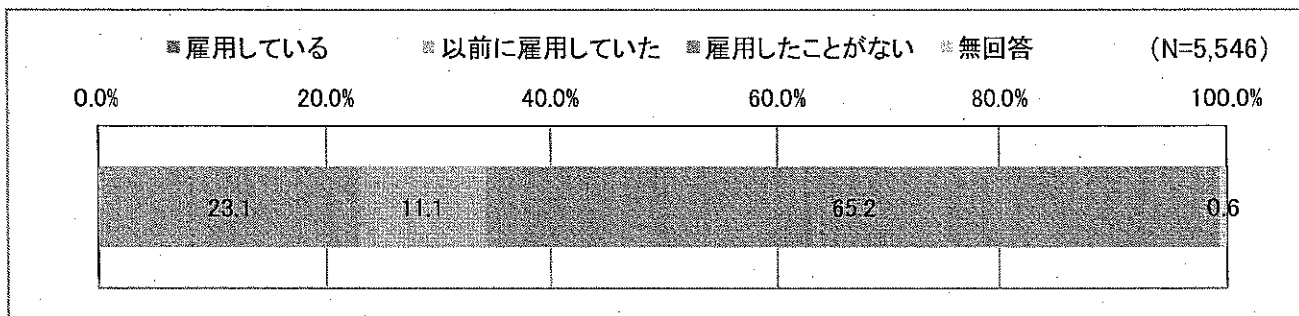
配付数	有効回答数	回答率
10,985 件	5,546 件	50.5%

7. 備考
- ・ 図表中の「N」（Number of cases の略）は、設問に対する回答事業所数（離職者の状況については、該当者数）であり、回答者の構成比（%）を算出するための基数である。
  - ・ 本文および図表中の構成比は、四捨五入により合計が 100%にならないことがある。
  - ・ 複数回答の可能な設問では、合計は 100%を超えることがある。

II 調査結果の概要

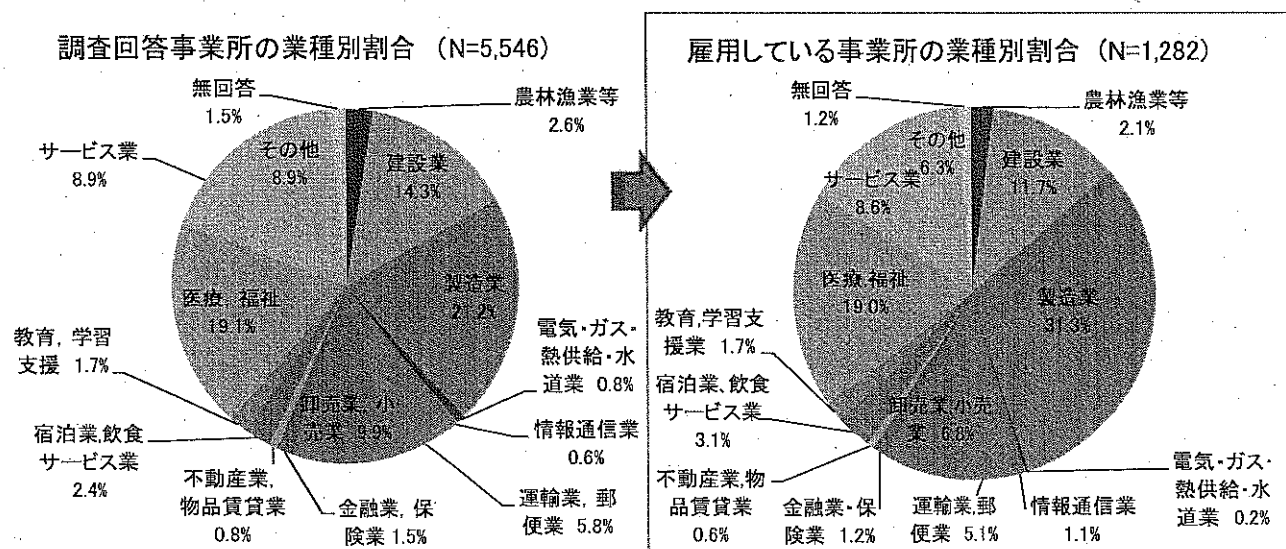
1 障がい者の雇用状況について

(1) 障がい者の雇用状況



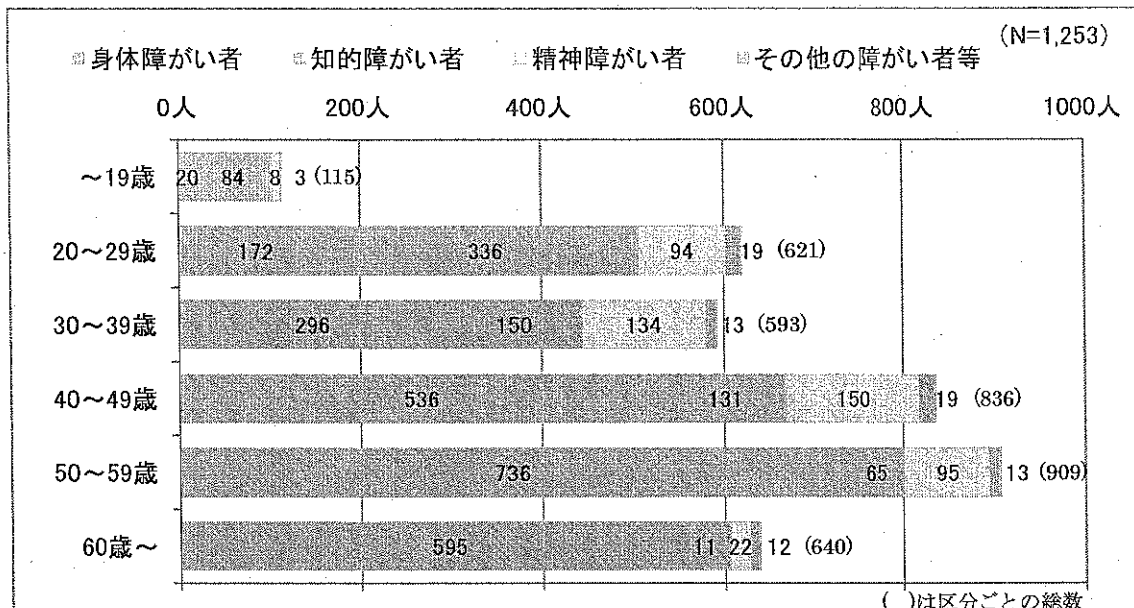
障がい者を「雇用している」事業所は全体の 23.1%で、概ね 5 社に 1 社の割合となっている。

(2) 障がい者を雇用している事業所の業種別割合



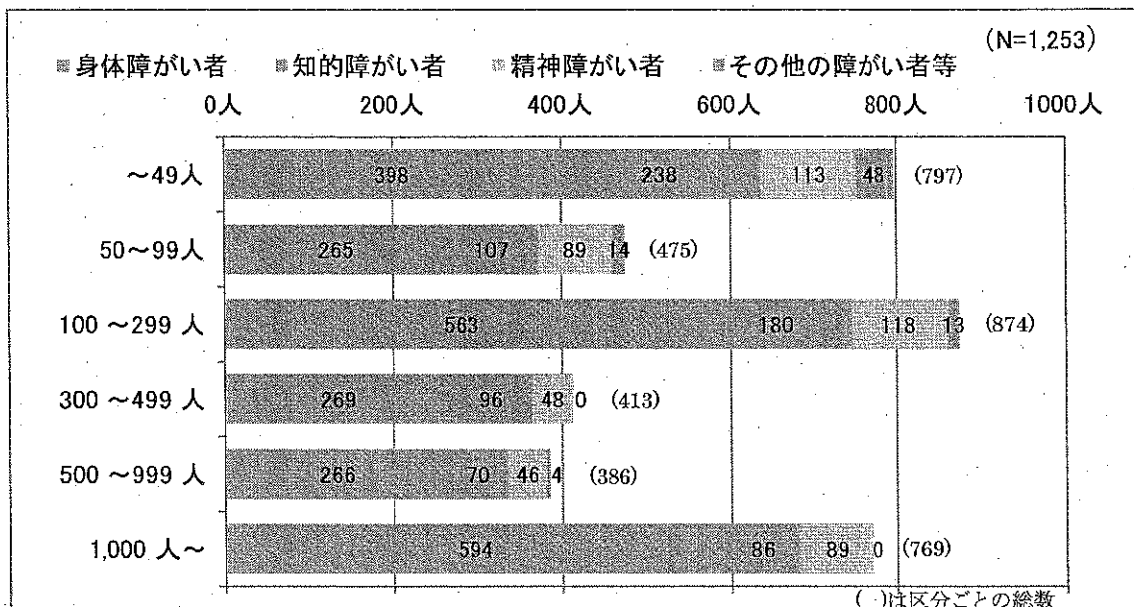
業種別では、調査回答事業所の業種別割合が高い「製造業」、「医療、福祉」の 2 業種での割合が高く、半数を占める。次いで、「建設業」、「サービス業」と高くなっている。

(3) 雇用されている障がい者の年齢構成と障がい等の種類



年齢層が高くなるほど、身体障がい者の占める割合が高くなっており、60歳を超えて雇用されている身体障がい者も多い。また、29歳以下の年齢層では知的障がい者の雇用割合が高くなっている。

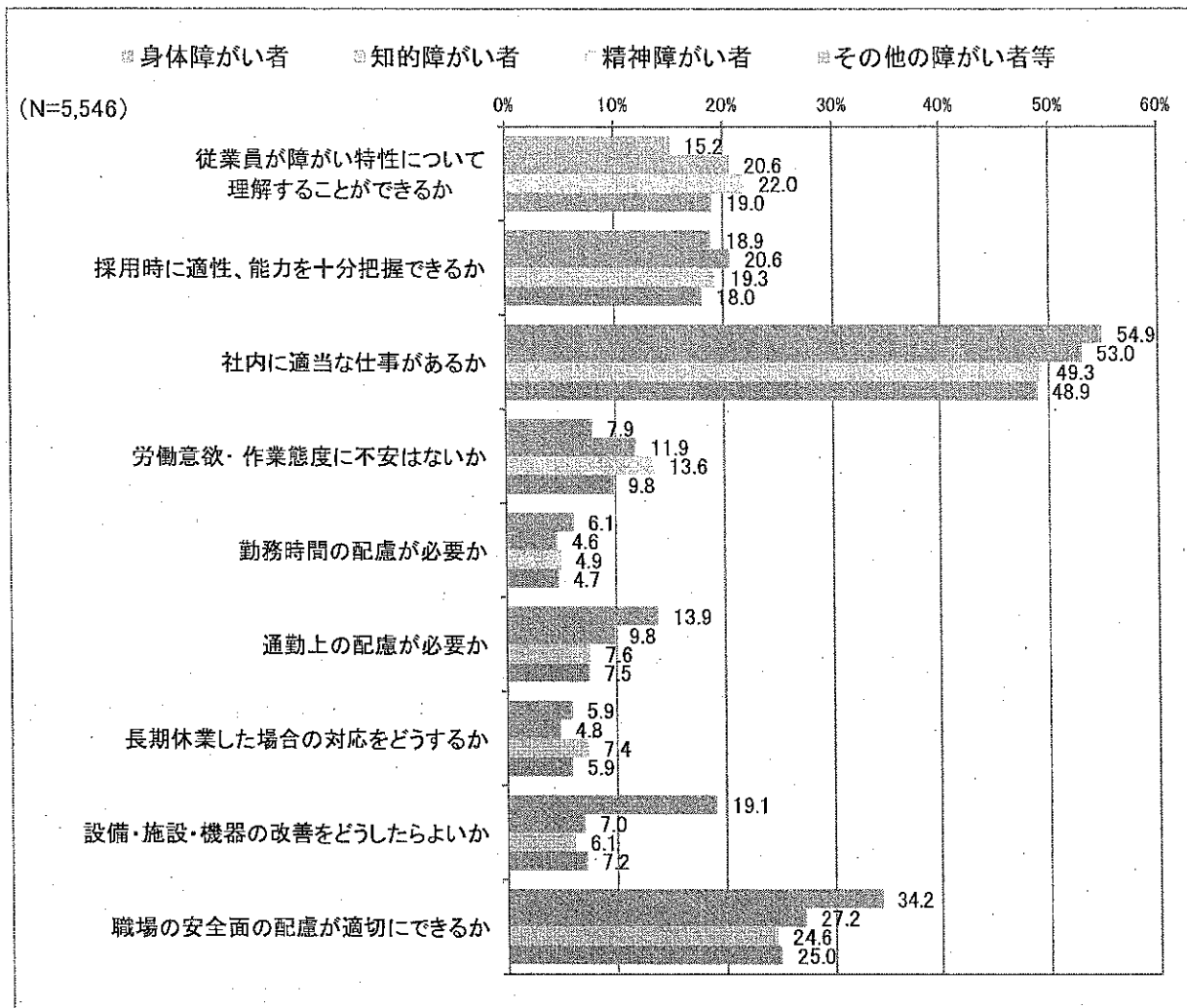
(4) 事業所従業員規模別の雇用障がい者数



従業員100～299人規模で最も多くなっている。次いで、従業員49人以下規模での雇用が多い。また、従業員数99人以下の事業所では、身体障がい者以外の雇用割合が比較的高くなっている。

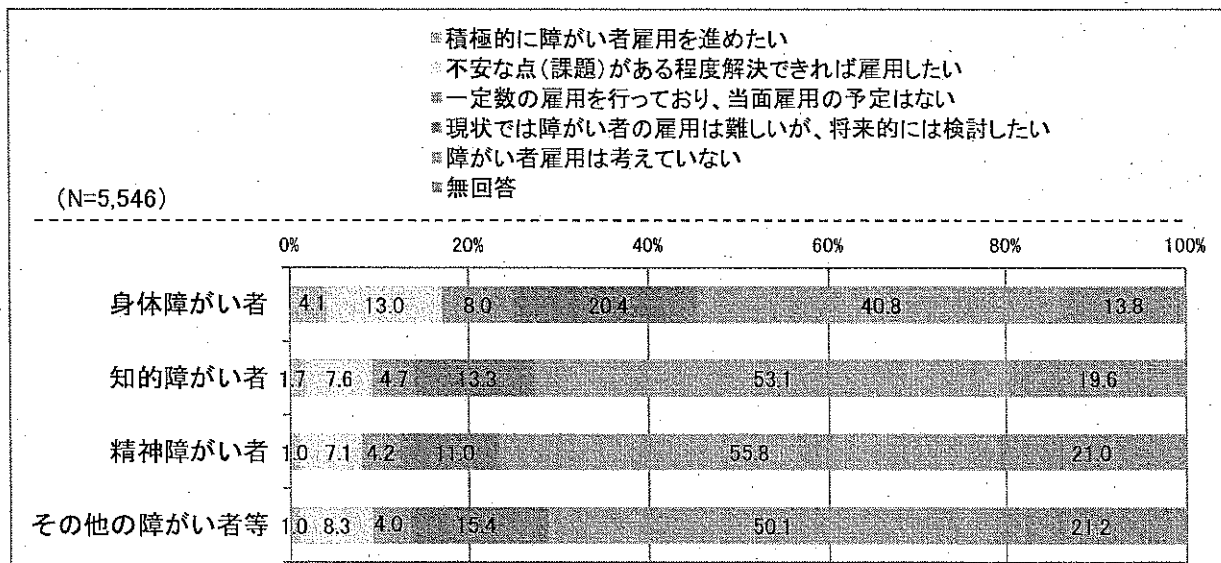
## 2 障がい者雇用にあたっての課題について

### (1) 障がい者の雇用を検討する上で不安な点（課題） 主なもの（複数回答）



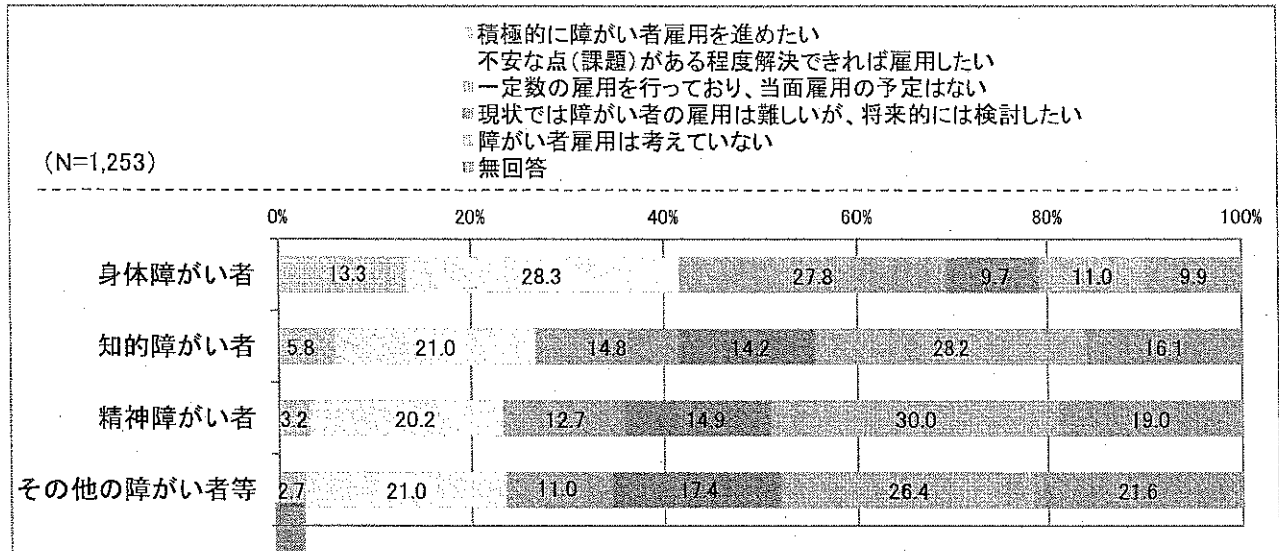
障がい等の種類に関わらず「社内に適当な仕事があるか」が最も高く、5割前後となっており、次いで「安全面の配慮」と業務上の課題が高い。また、障がい特性や能力の把握といった障がい者の理解についても、それぞれ2割程度と高くなっている。

### (2) 今後の障がい者雇用の意向



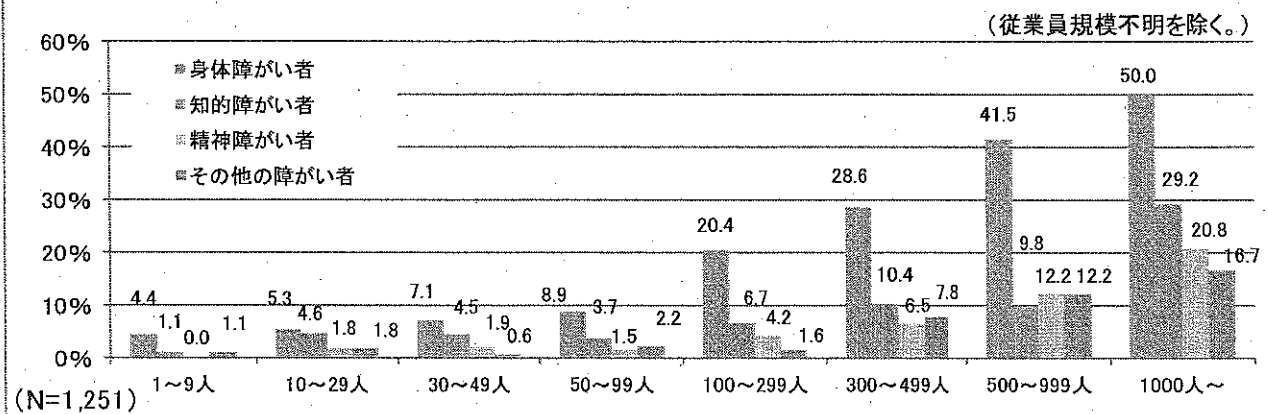
全体的に、障がい等の種類に関わらず「障がい者雇用は考えていない」が最も高く、4~5割台となっている。

① 「現在、障がい者を雇用している」事業所における今後の障がい者雇用の意向



障がい等の種類に関わらず「積極的に進めたい」「不安な点(課題)がある程度解決できれば雇用したい」とする雇用に前向きな回答の割合が比較的高い。

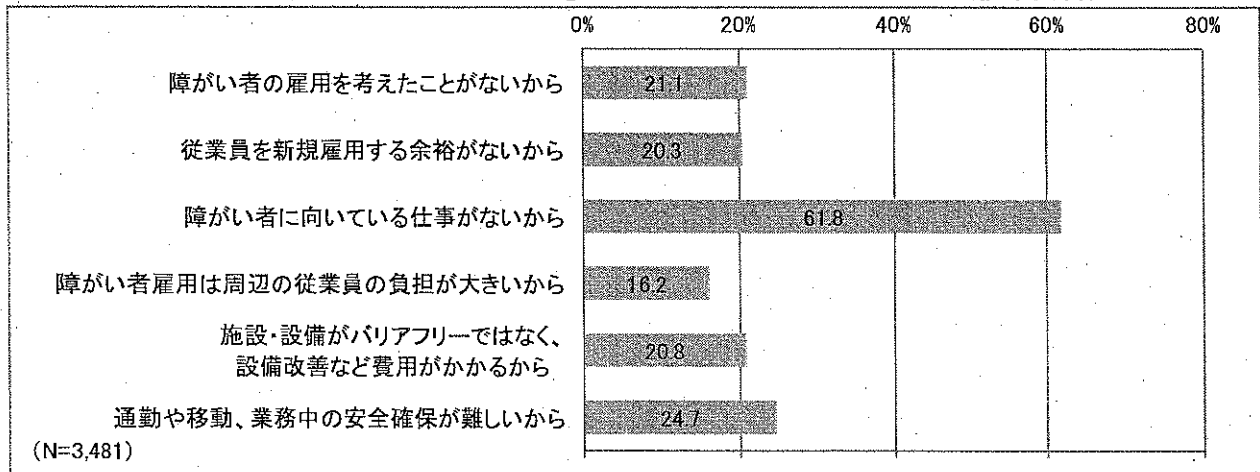
「積極的に障がい者雇用を進めたい」との意向をもつ事業所の割合(従業員規模別、障がい等の種類別)



従業員規模が大きくなるほど、「積極的に障がい者雇用を進めたい」とする割合が高い。ただし、身体障がい者と他の障がい等の種類とでは割合に差が生じている。

② 現在、障がい者を雇用していない事業所が、障がい者の雇用を「現状では難しい」又は「考えていない」とする主な理由

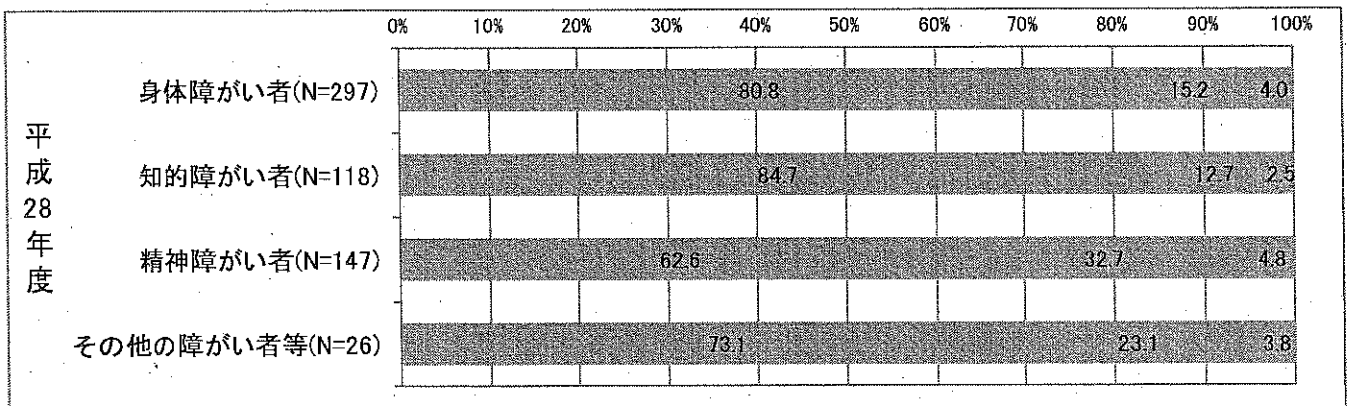
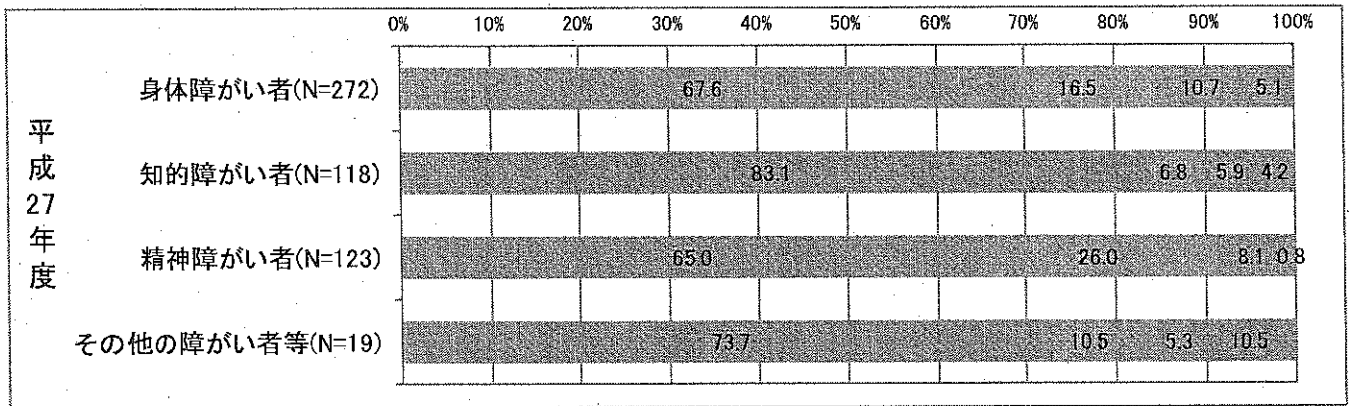
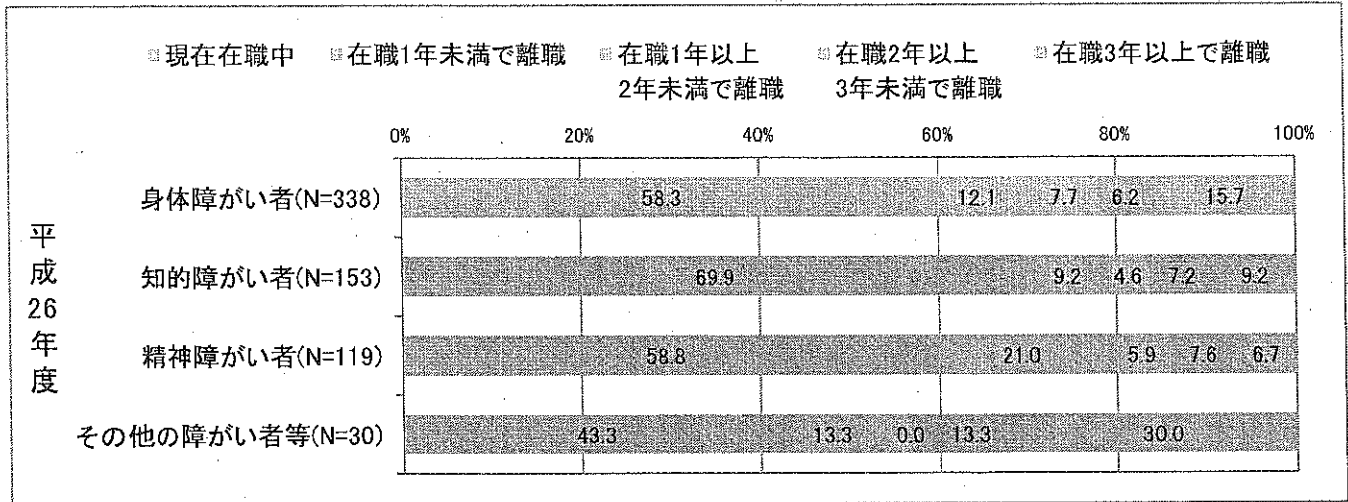
(複数回答)



「障がい者に向いている仕事がない」が最も高く、約6割を占めている。次いで障がい者の「安全確保」の割合が高くなっている。また、「設備改善の負担」、「従業員の負担」「新規雇用の余裕がない」など経営上の理由も高くなっている。

### 3 障がい者の職場定着について

#### (1) 採用年度別の在職状況

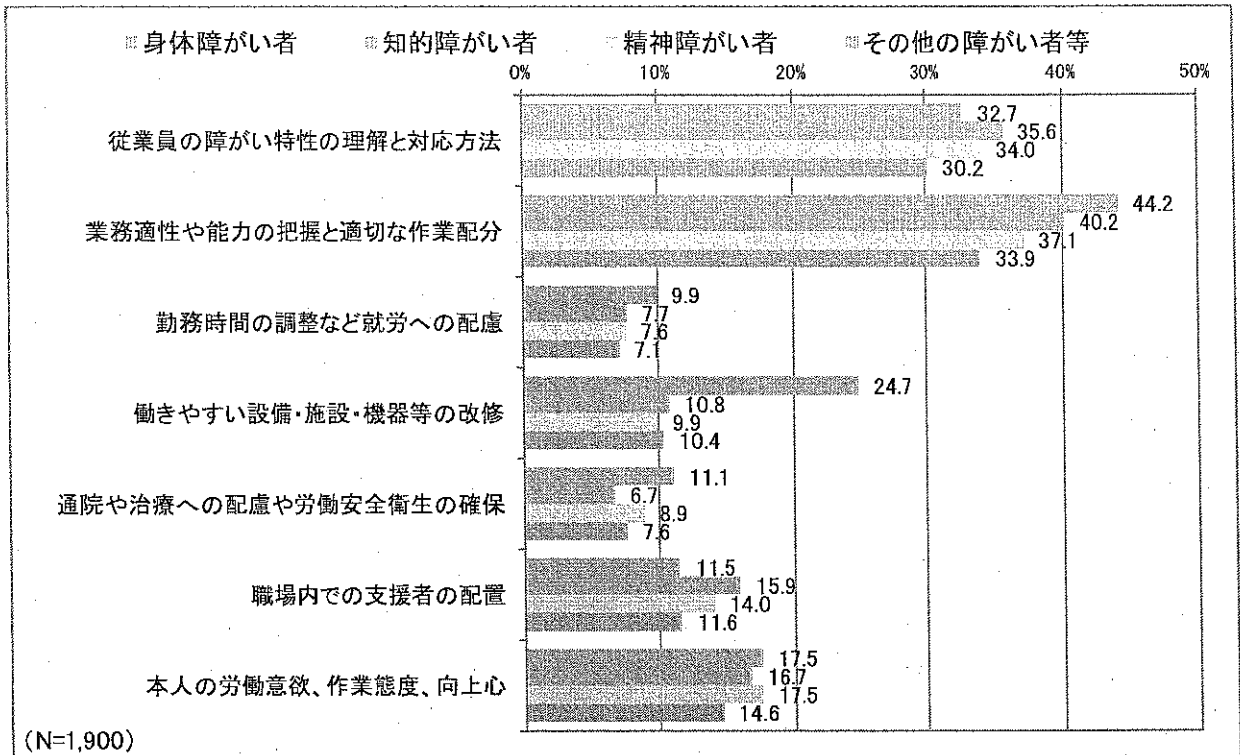


採用後概ね3年となる平成26年度採用者の在職率は、知的障がい者が69.9%と最も高く、次いで精神障がい者が58.8%、身体障がい者が58.3%となっている。一方在職1年未満で離職した者の割合を見ると、精神障がい者が21.0%と最も高く、次いで身体障がい者が12.1%、知的障がい者が9.2%となっている。

いずれの年度においても、精神障がい者は他の障がい者等に比べ、在職1年未満では離職率が高い傾向にあるが、在職1年以上の離職率では大差は見られない。

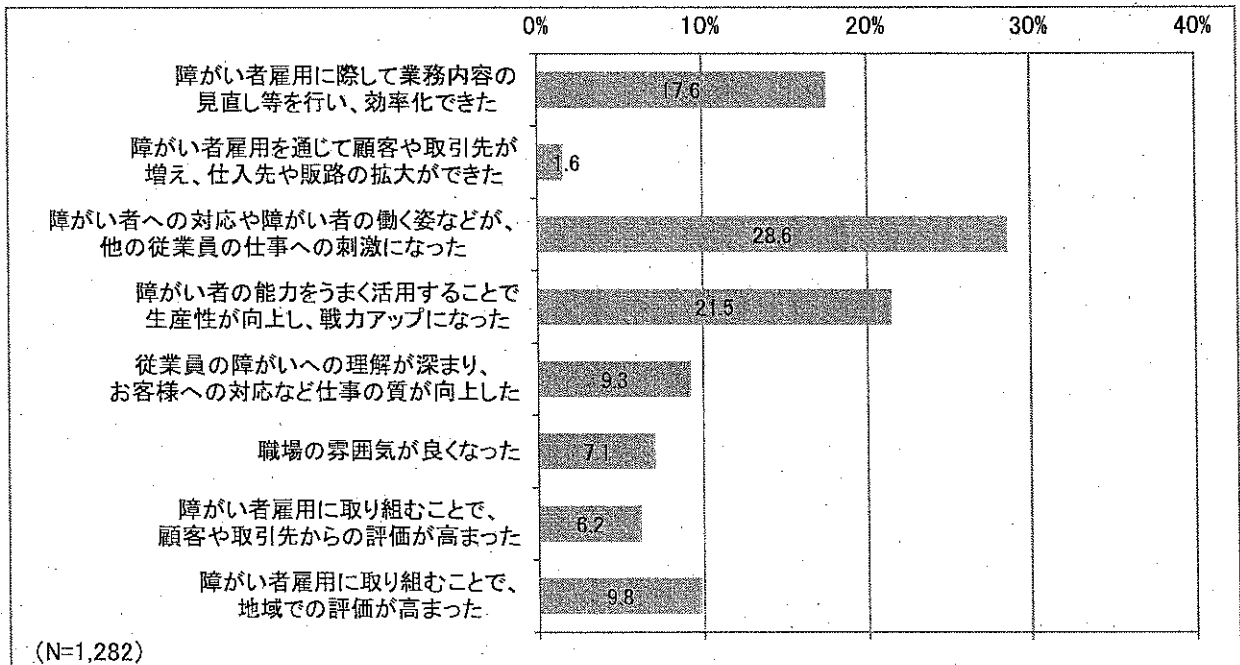


(2) 障がい者の職場定着における主な課題 (複数回答)



いずれの障がい等でも「業務適性や能力の把握と適切な作業配分」「従業員の障がい特性の理解と対応方法」の2項目が3割を超えて高くなっている。

(3) 現在、障がい者を雇用している事業所が、障がい者雇用を行って良かったこと (複数回答)



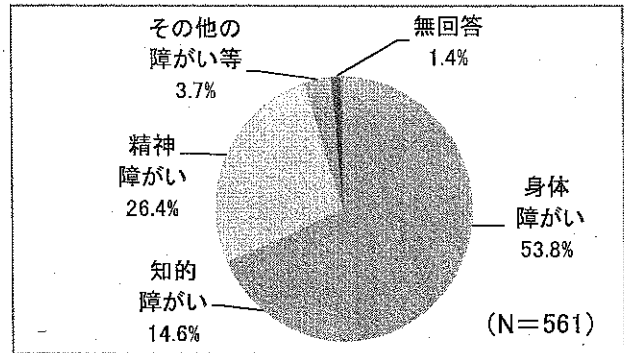
「働く姿などが、他の従業員の仕事への刺激になった」が28.6%と最も高く、次いで「能力をうまく活用することで生産性が向上し、戦力アップになった」が21.5%、「業務内容の見直し等を行い、効率化できた」が17.6%となっている。

#### 4 障がい者の離職状況について

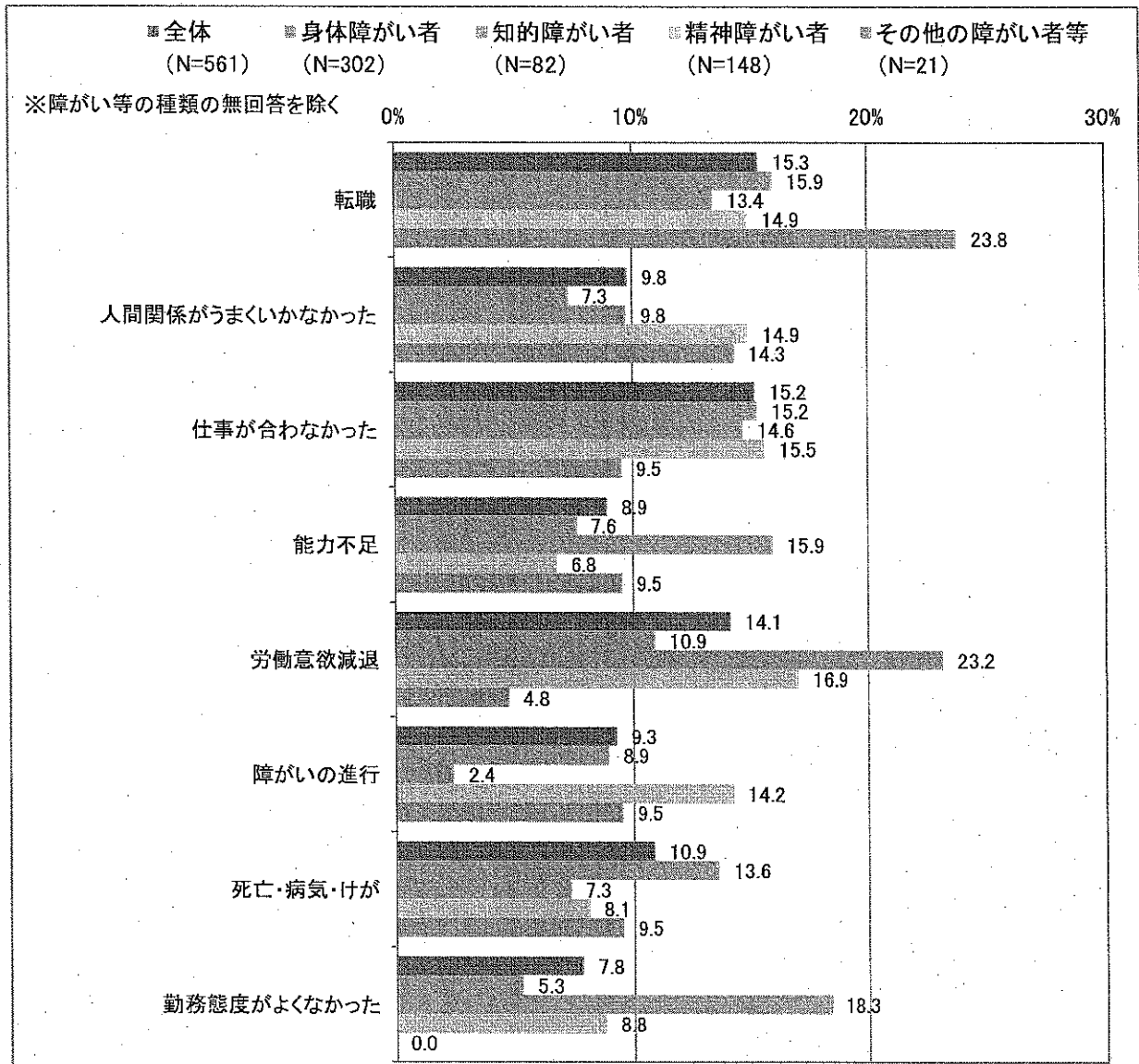
平成26年4月1日から平成29年3月31日までの期間に採用され、平成26年4月2日から平成29年5月31日までの期間に離職した障がい者の状況に関する調査を実施した。

##### (1) 離職者の障がい等の種類

「身体障がい」が53.8%と最も高く、過半数を占める。次いで、「精神障がい」が26.4%で約1/4となっている。

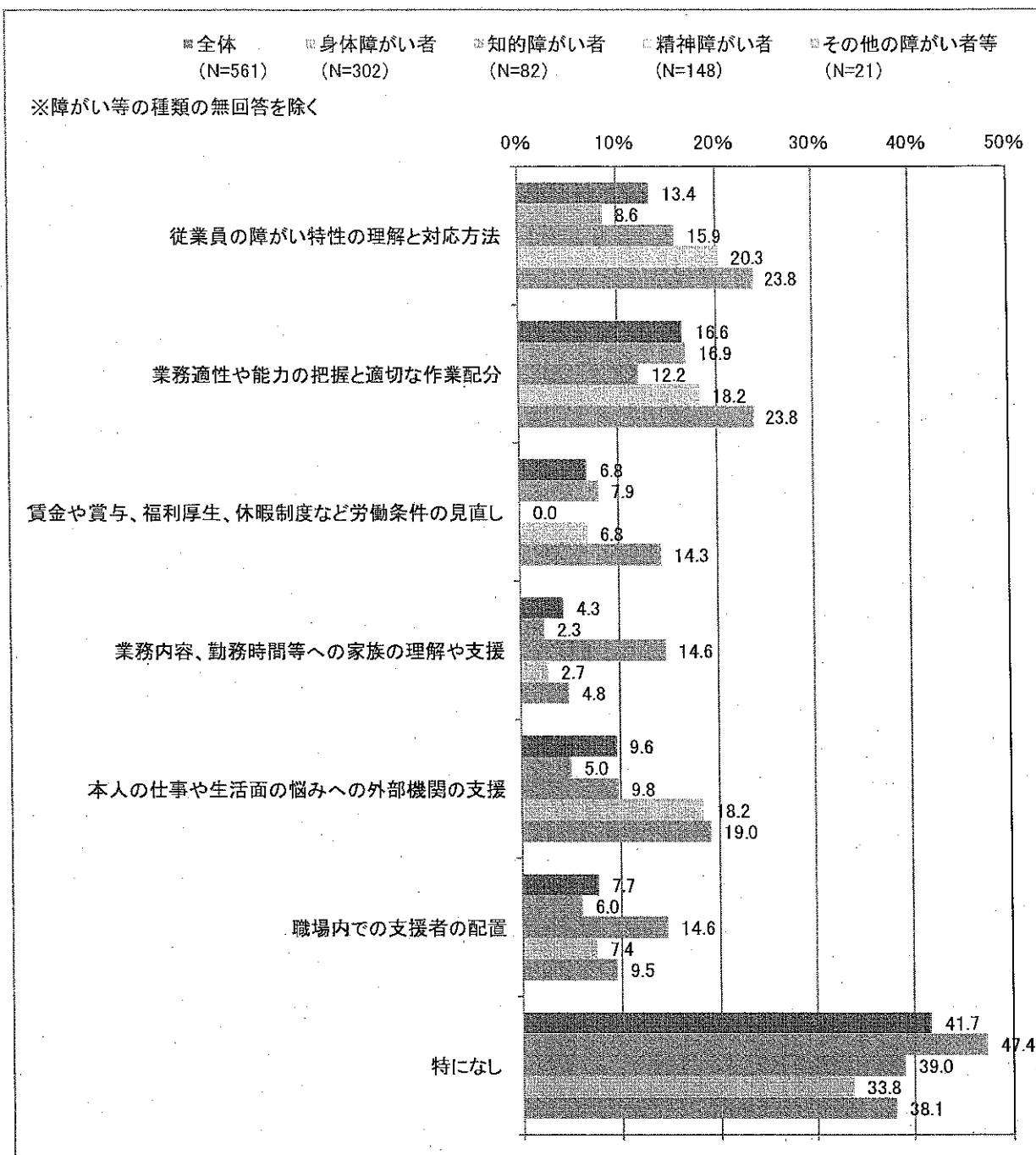


##### (2) 主な離職理由 (複数回答)



全体では、「転職」が15.3%と最も高く、次いで「仕事が合わなかった」が15.2%となっている。障がい等の種類別でも、「転職」「仕事が合わなかった」の2項目は比較的高くなっているが、知的障がい者では、「労働意欲減退」、「勤務態度がよくなかった」「能力不足」、精神障がい者では、「労働意欲減退」「人間関係がうまくいかなかった」も高くなっている。

(3) 離職者にどのような支援があれば雇用の継続が可能であったか（主なもの）（複数回答）



全体では、「業務適性や能力の把握と適切な作業配分」が16.6%と最も高く、次いで、「従業員の障がい特性の理解と対応方法」が13.4%となっている。

障がい等の種類別でも、「業務適性や能力の把握と適切な作業配分」「従業員の障がい特性の理解と対応方法」の2項目は比較的高くなっているが、身体障がい者では、「業務適性や能力の把握と適切な作業配分」が16.9%と最も高く、これ以外の項目は1割未満となっている。また、知的障がい者では、「業務内容、勤務時間等への家族の理解や支援」「職場内での支援者の配置」、精神障がい者、その他の障がい者等では、「本人の仕事や生活面の悩みへの外部機関の支援」も高くなっている。

### (3) 三重県新エネルギービジョンの取組状況について

#### 1 新エネルギービジョンの取組

「三重県新エネルギービジョン」(平成28年3月改定)では、平成42年度には一般家庭で消費されるエネルギーの84万5千世帯分に相当する量の「新エネルギー」の県内への導入をめざしており、有識者、企業、大学、地域団体等で構成する「三重県新エネルギービジョン推進会議」を設置し、多様な主体と連携しながら、具体的な取組やプロジェクトを推進しています。

#### (1) 新エネルギーの導入

「みえ県民力ビジョン第二次行動計画」では、計画期間末の平成31年度において、一般家庭で消費されるエネルギーの54万3千世帯分に相当する量の新エネルギーの県内への導入をめざしており、平成28年度末までに、太陽光発電や風力発電などを中心に、約55万9千世帯分に相当する量の新エネルギーの導入が進みました(別紙)。

平成28年度中に運用開始した主な新エネルギー施設

発電方式	名称	発電出力
太陽光発電	オリックス51M津メガソーラー発電所	51,000kW
風力発電	新青山高原風力発電所2期	44,000kW
	度会ウィンドファーム1期	28,000kW
バイオマス発電	(木質系) 多気バイオパワー	6,700kW
	グリーンエナジー津	20,100kW
	(廃棄物系) 四日市市クリーンセンター	9,000kW
中小水力発電	青蓮寺用水発電所	183kW
	中里ダム発電所	133kW

現在、太陽光発電のほか、風力発電(津市、伊賀市、度会町等)、バイオマス発電(松阪市、四日市市等)などの建設や計画が進められており、引き続き、新エネルギーの導入促進に取り組んでいます。

#### (2) 新エネルギー導入・省エネの普及啓発

家庭や事業所における太陽光発電、次世代自動車などの導入を促進し、省エネを推進するため、大学、高校等での講座や事業者向け省エネセミナーのほか、各種イベントにおいて新エネルギーや省エネについての普及啓発に取り組んでいます。

#### (3) 創エネ・蓄エネ・省エネ技術を活用したまちづくりの推進

鳥羽市の離島における小型電動モビリティを活用した地域活性化についての勉強会や、伊賀市において小水力発電の復活に向け取り組む協議会に参加し、国の支援制度を紹介するなど、地域団体、事業者等が主体となったまちづくりの取組を支援しています。

#### (4) 環境・エネルギー関連産業の育成と集積

県工業研究所と企業が、燃料電池や太陽電池等に関する先導的な研究開発を共同で実施することで、シーズ創出を促進し、県内企業の環境・エネルギー分野への進出につなげていくこととしています。

平成 29 年度は新たに県内企業 4 社と、蓄電池や太陽電池の部材等の改良技術に係る共同研究に取り組んでいます。

#### (5) 次世代の地域エネルギー等の活用推進

##### ア 水素エネルギー

四日市市とコンビナート企業との水素の活用に向けた検討委員会に参加し、水素社会に向けたコンビナートのあり方について意見交換を行っています。

また、燃料電池自動車の導入促進を図るため、各種イベントでの燃料電池自動車、移動式水素ステーションの展示や、「みえ水素エネルギー社会研究会公開セミナー」(10月)等を開催し、水素エネルギーの普及啓発や情報発信に取り組んでいます。

##### イ バイオリファイナリー

平成 28 年 9 月 1 日に締結したバイオベンチャー企業、発電事業者、地元自治体、県の 4 者による協定に基づき、バイオベンチャー企業等が実施するバイオ燃料用藻類生産実証プロジェクトについて、7 月 31 日に大規模なあぜ型の培養プールが稼働し、燃料用微細藻類の生産コスト削減や生産量拡大に向けた取組が進んでいます。

##### ウ メタンハイドレート

商工会議所、コンビナート企業、市町等で構成する「メタンハイドレート地域活性化研究会」を 12 月に開催し、4 月から志摩半島沖で実施された第二回産出試験をふまえたメタンハイドレート開発の現状等について情報共有を図ります。

## 2 太陽光発電施設の適正導入に係るガイドラインの取組

### (1) ガイドラインの周知

大規模な太陽光発電施設の適正導入に向け、事業者に遵守を求める事項等を示した県ガイドラインを 7 月より施行しており、市町、農業委員会、事業者など関係者への説明会を実施し、ガイドラインの周知に取り組んでいます。

ガイドラインでは、県、市町が早い段階で太陽光発電の事業計画を把握できるよう、事業者に対し、計画作成段階での「事業概要書」の提出を求めており、県は、市町との間で情報共有を図り、協力して対応できる体制を整えています。

なお、ガイドライン施行後、これまでに 51 件 (11 月末現在) の「事業概要書」が提出されています。

### (2) ガイドラインの運用

ガイドラインに基づき、事業者ヒアリングを行い、設置場所の概況、関係法令・条例の手続き状況などについて確認を行うとともに、地域住民とのコミュニケーションが図られていない場合には、説明会などを開催するよう働きかけています。

また、地域住民等からは、太陽光発電の設置に伴う排水対策の不備、雑草の繁茂、フェンスの未設置など 41 件 (11 月末現在) の相談を受けており、市町の協力のもと、現地確認を行うなど状況把握に努め、事業者へ対策を要請しています。

引き続き、太陽光発電が地域と調和が図られた施設となるよう、市町と連携しながら取り組めます。

## 新エネルギー導入実績と目標 平成 29 年度 (平成 28 年度末)

	平成 27 年度 (H26 年度末実績)	平成 29 年度 (平成 28 年度末実績)	
	現状値	上段：実績値 下段：目標値	目標達成状況
太陽光発電	646,160 kW (102,607 世帯)	1,280,226 kW(203,290 世帯) 839,600 kW(133,300 世帯)	152.5%
太陽熱利用	1,687 kℓ (900 世帯)	1,835 kℓ( 990 世帯) 2,350 kℓ(1,300 世帯)	78.1%
風力発電	72,655 kW (17,700 世帯)	180,655 kW(44,130 世帯) 108,655 kW(26,500 世帯)	166.3%
バイオマス発電	73,200 kW (62,600 世帯)	112,500 kW(96,190 世帯) 116,300 kW(99,400 世帯)	96.7%
バイオマス熱利用	54,746 kℓ (29,700 世帯)	54,863 kℓ(29,740 世帯) 60,653 kℓ(32,900 世帯)	90.5%
中小水力発電	5,905 kW (4,300 世帯)	6,559 kW(4,810 世帯) 6,311 kW(4,630 世帯)	103.9%
コージェネレーション (燃料電池除く)	443,385 kW (127,300 世帯)	448,398 kW(128,730 世帯) 461,548 kW(132,500 世帯)	97.2%
燃料電池	2,044 kW (580 世帯)	2,789 kW( 790 世帯) 3,600 kW(1,000 世帯)	77.5%
次世代自動車	94,301 台 (18,700 世帯)	133,809 台(26,480 世帯) 125,638 台(24,900 世帯)	106.5%
ヒートポンプ	97,635 台 (20,100 世帯)	114,665 台(23,620 世帯) 103,300 台(21,300 世帯)	111.0%
従来型一次エネルギーの削減量合計 (世帯換算)	384,487 世帯	558,770 世帯 477,730 世帯	117.0%



#### (4)「高度部材イノベーションセンター（AMIC）」の今後の取組方向について

##### 1 概要

AMIC設立（平成20年3月）から約10年が経過し、国内外の経済・社会情勢が変化していることから、学識経験者や経済団体等による「AMIC方向性検討委員会」の検討内容、県内企業との意見交換、常任委員会の意見等を踏まえ、新しいAMICの取組方向等の取りまとめを行っています。

##### 2 新しいAMICの取組方向（案）

###### (1) 県の産業政策における高度部材産業の位置付け

北勢地域には、コンビナート企業を中心とする素材・部材産業、自動車等の加工組立産業、高い技術力を持つ中小企業などが集積し、研究開発機能が強化されるなど、高度部材を生み出し、イノベーション誘発の優位性の高い地域となっています。

次世代自動車の普及や各種半導体等の産業の成長に伴い、高度部材に関するニーズは急速に変化しています。

引き続き、北勢地域が日本の高度部材産業をけん引する地域として、国内外の事業者との競争に勝ち残ることが求められています。

このため、炭素繊維複合材料、次世代電池、各種半導体に関する高度部材など、注力すべきテーマに沿って、県内外の産学官連携によるオープンイノベーションが推進されることをめざします。

###### (2) 名称

「高度部材・ものづくりオープンイノベーションセンター」と改称、略称は「AMIC」(Advanced Materials Innovation Center)を継続使用します。

###### (3) 目標の進捗管理

AMICの基本方針（あるべき姿、目標）を明確化するとともに、進行管理・評価を継続的に行うしくみを構築します。

###### (4) 産学官連携

県内外の企業、三重大学をはじめとする県内外の大学との連携を強化し、共同研究やプロジェクトを推進します。

###### (5) 新しいAMICの主要な取組

社会ニーズを探し、ニーズに合った技術を育てる「技術を見出す」段階から「技術を売る」段階までの〈ステップアップ支援〉を行うとともに、産学官連携の研究開発の触媒・中核機関の役割を果たすため、〈プラットフォーム機能の強化〉と〈出会いの場の提供〉に取り組めます。

###### ① ステップアップ支援

###### ○ 産業技術総合研究所（産総研）との連携

ニーズの高い産総研の専門分野の研究員を技術アドバイザーに任命するなど、企業相談に応じてもらえるよう働きかけを行います。



○県内外の大学等との連携

三重大学の北勢サテライトをはじめ、大学(名古屋工業大学、京都大学等)、高等専門学校、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)、中部経済連合会、県内経済団体などとの連携を深めます。

○中小企業の技術データの整理・蓄積

県内企業のデータを技術の強み等に観点を当てて整理するなど、データベースを充実します。

○みえ産学官技術連携研究会との連携

県内企業と県内外の大学・高専等で組織する研究会(県工業研究所主催)と連携を深め、高度部材にかかる技術開発を進めます。

②プラットフォーム機能の強化

○オープンイノベーション機能の強化

県内外の大学、団体等を構成員とするオープンイノベーション誘発のための企画を行う会議を新たに設置します。

○旗艦プロジェクトの組成

県内企業の技術を生かし、企業のイノベーションをけん引する旗艦プロジェクトを産学官が連携して組成します。

○技術アドバイザーの設置

企業OB、県内外の大学、産総研、NEDOなどの専門家を、新たに技術アドバイザー(非常勤)として招へいし、企業技術の目利き力向上やプロジェクトメイキングにつなげます。

○高度な技術人材の育成

部門を越えた技術開発や問題解決などをリードする技術人材やものづくりにおけるIoTやAIの活用を進める技術者を育成します。

③出会いの場の提供

○大学・産総研等との連携、セミナー等の開催

産学官の関係者が参加する会議の設置やセミナー・人材育成講座の開催を通じ、出会いの場を提供します。

④中小企業支援のための役割の継続

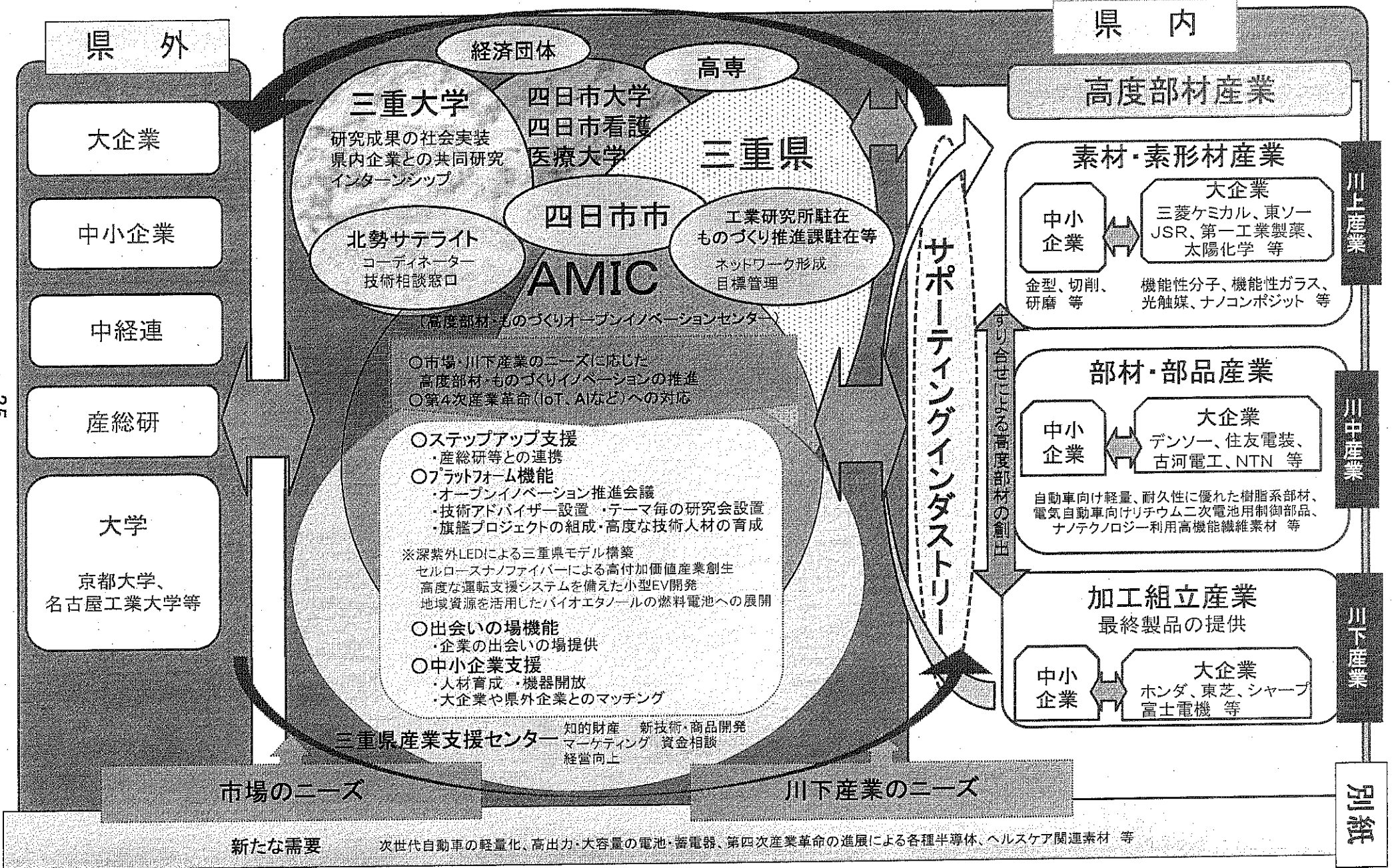
○企業訪問・相談、技術人材育成、評価計測機器の開放

(公財)三重県産業支援センターの北勢支所として、企業訪問や相談、技術人材育成、評価計測機器の開放などを実施します。

3 今後の取組

AMIC方向性検討委員会等の意見を踏まえ、新しいAMICの取組方向を取りまとめ、北勢地域を中心に、オープンイノベーションが誘発されるよう取組を進めていきます。

# 三重県 高度部材・ものづくりオープンイノベーションセンターイメージ図





## (5) みえリーディング産業展 2017 の開催結果について

### 1 概要

地域に根差した産業展示会として、企業関係者、一般消費者、学生を主要ターゲットに、三重県の産業や企業の製品、技術、サービスをアピールすることで、新規顧客の開拓や、人材を確保することを目的に、金・土の二日間で開催しました。

来場者数は5,224人と、昨年度より283人(5.7%)増加しました。

- (1) 日 時 平成29年10月27日(金) 10時～17時  
平成29年10月28日(土) 10時～16時
- (2) 場 所 四日市ドーム(四日市市羽津甲5169)
- (3) 主 催 みえリーディング産業展2017実行委員会
- (4) 出展者数 227小間〔28年度：202小間〕
- (5) 来場者数 5,224名〔28年度：4,941名〕

	10月27日(金)		10月28日(土)		合 計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
企業関係者	1,948	66.0	498	21.9	2,446	46.8
一 般	472	16.0	1,625	71.5	2,097	40.1
学 生	307	10.4	56	2.5	363	6.9
その他	224	7.6	94	4.1	318	6.1
合 計	2,951	100.0	2,273	100.0	5,224	100.0

(参考) 28年度内訳：企業関係2,295人(46.5%)、一般2,002人(40.5%)、学生451人(9.1%)

### 2 主な開催内容

#### (1) 各種講演、セミナー(両日)

##### ①基調講演：時代の変化と企業経営

講師：J. フロントリテイリング(株) 相談役 奥田 務氏(三重県出身)

##### ②特別講演：Watsonではじめよう！AIの世界

講師：日本アイ・ビー・エム(株) コグニティブ営業部部長 荒木幹男氏

##### ③JAXA特別講演会：宇宙開発が目指す未来

講師：宇宙航空研究開発機構 研究開発部門 後藤亜希氏(三重県出身)

##### ④みえICT/IoTビジネス・マッチングセミナー

テーマ：ドローンビジネス最前線 ほか

講師：(株)ブイキューロボティクス 担当者ほか

など、合計11件の講演とセミナーを開催しました。

#### (2) 個別商談会(27日)

製造業、百貨店、スーパー、レストランなど県内外の12社を発注企業に迎え、受注を希望する県内の企業や生産者51社が参加して、個別面談方式の商談会を開催しました。(商談件数78件)

①発注企業 製造業 日本車両製造(株) ほか6社(計7社)

食産業 (株)イオンリテール ほか4社(計5社)

②商談希望企業 製造業系14社、食産業系37社(計51社)

③商談結果 試作依頼5、再相談等52、その他・不成立21

### (3) 学生・若者と企業の出会い（両日）

県内企業の人材確保や、若者の地元定着を支援するため、学生や若者が県内企業の魅力を知るための「企業の魅力発見フェア」等を実施しました。（参加学生数：99名、参加校：三重大学、四日市大学、徳風高校、津高等技術学校等）

また、28日には学生・若者を対象に、企業に就職した先輩が現況について語る交流イベントを行いました。＜参加者16名＞

### (4) 子どもわくわく体験教室（28日）

親子で楽しめる科学・工作など6つの体験プログラムを、企業等の協力を得て開催しました。スタンプラリーも行い、参加スタンプを集めた子どもには「お伊勢さん菓子博2017」限定記念品をプレゼントしました。

- ①三重大学・JAグループ「三重大生に挑め！」（お米や野菜の重量当てクイズ）
- ②第一工業製薬（株）「ハンドソープを作ってみよう！」
- ③三重IoT推進ラボ「IchigoJamでプログラミング体験！」
- ④ナノ有志の会中部「世界一の技術に触れるサイエンスカフェ」
- ⑤萬古焼陶磁器振興協同組合連合会「親子で創って楽しむ萬古焼ランプシェード」
- ⑥三重県工業研究所「ミクロの世界を見てみよう」

### (5) 萬古焼・陶祖生誕300年記念イベント（両日）

平成30年が、萬古焼陶祖の沼波弄山（ぬなみろうざん）の生誕300年に当たることを記念して、萬古陶磁器振興協同組合連合会、四日市萬古作家協会が出展しました。また、子どもわくわく体験教室に協力をいただきました。

### (6) 燃料電池自動車等の展示（両日）

燃料電池車の導入促進と水素エネルギーの普及啓発のため、トヨタ（ミライ）とホンダ（クラリティ・フエセル）の燃料電池自動車と、移動式水素ステーションの展示を行いました。

### (7) 熊本地震復興支援物産展（両日）

平成28年4月の熊本地震の復興支援のための物産展を開催し、28日には「くまモン」も登場したステージショーを行いました。

### (8) その他（両日）

障がい者就労支援を目的とした弁当や物品の販売、中小企業の相談に応じる「よろず相談コーナー」等の設置、企業等の協力によるドローンのデモ飛行等を行いました。

## 3 アンケート集計結果

### (1) 出展成果（出展者による回答）

- |         |       |   |         |       |
|---------|-------|---|---------|-------|
| ① 非常に満足 | 19.3% | 、 | ② やや満足  | 59.7% |
| ③ やや不満  | 16.7% | 、 | ④ 非常に不満 | 4.3%  |

### (2) 産業展の内容（来場者による回答）

- |             |       |   |          |       |
|-------------|-------|---|----------|-------|
| ① 非常に良かった   | 22.1% | 、 | ② 良かった   | 70.6% |
| ③ あまり良くなかった | 6.0%  | 、 | ④ 良くなかった | 1.3%  |

## 4 今後の対応方針

出展者や商談会参加企業のフォローを的確に行い、県内中小企業のビジネス拡大を支援していきます。

なお、総合見本市という本展示会の形での事業は今年度限りとし、今後は商談会などの中小企業のビジネスマッチングを充実するとともに、企業表彰制度を活用した企業の魅力発信や学生とのマッチングなどのイベントを検討していきます。

## (6) 企業誘致の推進について

### 1 工場立地動向調査の結果について

#### (1) 県全体の概要

国の工場立地動向調査（平成29年上期（1月～6月））の結果（速報値）が発表され、県内における企業の工場用地の取得は、件数15件（全国12位）、面積30ha（全国6位）となりました。

年(暦年)	平成24年		平成25年		平成26年		平成27年		平成28年		平成29年
件数(件)	20	上期9 下期11	15	上期4 下期11	15	上期6 下期9	28	上期10 下期18	31	上期17 下期14	上期15
面積(ha)	27	上期14 下期13	26	上期14 下期12	16	上期7 下期9	29	上期10 下期19	73	上期44 下期29	上期30

※本調査は、経済産業省が暦年毎に企業の工場用地等（敷地面積1,000㎡以上）の取得（借地を含む）状況を調査したものです。上記の対象業種は電気業を除いています。

※立地面積の小数点第一を四捨五入してhaで表記しています（以下同様）。

#### (2) 新設・増設の件数

年		総数		新設		増設	
		件数	面積(ha)	件数	面積(ha)	件数	面積(ha)
平成28年	上期	17	44	9	16	8	28
	下期	14	29	10	26	4	3
	計	31	73	19	42	12	31
平成29年	上期	15	30	10	27	5	4

※工場立地動向調査における「新設」・「増設」について、「増設」とは自社の既存の工場敷地に隣接して当該工場が1,000㎡以上の用地を取得した場合をいい、それ以外を「新設」としています。

#### (3) 地域別の立地動向

平成29年上期の地域別立地件数は北勢地域が8件で19ha、伊賀地域が4件で5ha、中南勢地域が3件で7haでした。

地域	件数				面積(ha)			
	平成28年			平成29年	平成28年			平成29年
	上期	下期	計	上期	上期	下期	計	上期
北勢	9	8	17	8	32	15	47	19
中南勢	3	3	6	3	7	10	17	7
伊勢志摩	0	1	1	0	0	1	1	0
伊賀	5	2	7	4	5	3	8	5
東紀州	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	17	14	31	15	44	29	73	30

(注) 県内地域別の市町区分について

【北勢地域:10市町】桑名市、いなべ市、木曾岬町、東員町、四日市市、菰野町、朝日町、川越町、鈴鹿市、亀山市

【中南勢地域:6市町】津市、松阪市、多気町、明和町、大台町、大紀町

【伊勢・志摩地域:6市町】伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、南伊勢町

【伊賀地域:2市】伊賀市、名張市

【東紀州地域:5市町】尾鷲市、紀北町、熊野市、御浜町、紀宝町

## 2 シャープ株式会社亀山工場立地に伴う経済波及効果等について

三重県企業立地促進条例に基づく産業集積促進補助金を活用し誘致したシャープ株式会社亀山工場について、立地に伴う経済波及効果等（雇用、税収等）を毎年5月時点で調査を行っており、平成29年における状況は以下のとおりでした。

### (1) 調査項目・対象・出典

- ①雇用：シャープ株式会社亀山工場及び同工場と直接取引関係にある企業【合計23社】
- ②税収：シャープ株式会社亀山工場、同工場立地に伴い新設又は増設を行った製造業10社、ユーティリティー関連2社及び物流関連等3社【合計16社】
- ③製造品出荷額：経済産業省「工業統計調査」

### (2) 調査結果の概要

#### ①雇用

- ・シャープ株式会社亀山工場を含めた23社において、平成29年5月時点で約8,400名が雇用されています。
- ・企業別内訳では、シャープ株式会社亀山工場が約2,100名、シャープ株式会社亀山工場内協力企業が約300名、直接取引関係にある企業が約6,000名となっています。
- ・雇用形態別内訳では、正社員が約5,400名、派遣・業務請負等従事者が約3,000名となっています。
- ・シャープ株式会社亀山工場を含めた23社のうち3社で、平成29年4月に県内高校新卒者31名を採用しています。シャープ株式会社亀山工場が操業した平成16年度から平成29年度までの県内高校新卒者採用者数（各年4月採用）は累計で1,308名になります。

#### ②税収

- ・調査対象とした16社の平成28年度県税収入（法人事業税、法人県民税、地方法人特別税）は約8.2億円で、平成16年度以降の税収累計額は約476.4億円となりました。

#### ③製造品出荷額

- ・県全体の製造品出荷額は平成18年に10兆円を超え、堅調に推移してきました。平成21年は、リーマンショック等の影響で大幅に減少したものの、平成24年から持ち直し、平成27年（確報値）は10兆8,986億円となりました。平成18年以降全国9位を維持しています。
- ・シャープ株式会社亀山工場が平成16年1月に操業を開始して以降、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」の製造品出荷額は、8,725億円（平成15年）から1兆9,434億円（平成26年）と大幅に増加し、平成16年以降は全国1位となっています。

## シャープ株式会社亀山工場立地に伴う経済波及効果等について

## 1 雇 用

## 【調査方法】

シャープ(株)亀山工場立地に伴う雇用創出効果について、同工場及び同工場と直接取引関係にある企業(合計 23 社)を対象にヒアリング等を実施し、各企業の雇用者数を調査しました。

調査は平成 29 年 5 月 1 日時点を基本としています。

## 【調査結果】

① シャープ(株)亀山工場立地に伴い、対象企業 23 社全体における雇用者数は、約 8,400 名となっています。

企業別内訳では、シャープ(株)が約 2,100 名、シャープ(株)亀山工場内協力企業が約 300 名、県内で新增設した関連企業が約 6,000 名となっています。

雇用形態別では、正社員が約 5,400 名、派遣・業務請負等従事者が約 3,000 名となっています。

② シャープ(株)亀山工場を含めた 23 社のうち 3 社で、平成 29 年 4 月に県内高校新卒者 31 名を採用しています。平成 16 年度から平成 28 年度までの県内高校新卒者採用者数(各年 4 月採用)は累計で 1,308 名になりました。

## ◇ 総雇用者数の推移 (概数)

(単位:人)

区分		H16.1 (操業)	H17.5	H18.5	H19.5	H20.5	H21.5	H22.5
シャープ(株)		500	1,300	2,000	2,300	3,100	3,000	2,700
協力企業※1		1,200	2,000	2,000	1,800	1,600	1,200	1,400
内 訳	生産	1,000	1,600	1,500	1,300	1,100	800	1,000
	非生産	200	400	500	500	500	400	400
関連企業※2		800	2,400	3,200	3,600	3,900	2,600	2,800
計		2,500	5,700	7,200	7,700	8,600	6,800	6,900

(次頁に続く)

※1 「協力企業」:シャープ(株)亀山工場敷地内で操業している企業

※2 「関連企業」:シャープ(株)亀山工場敷地外で操業している県内立地企業



区分	H23.5	H24.5	H25.5	H26.5	H27.5	H28.5	H29.5
シャープ(株)	2,200	2,200	2,200	2,200	2,300	2,000	2,100
協力企業※1	1,100	300	300	300	400	400	300
内訳	生産	800	0	0	100	100	100
	非生産	300	300	300	200	300	200
関連企業※2	3,800	5,200	5,700	6,100	7,400	6,300	6,000
計	7,100	7,700	8,200	8,600	10,100	8,700	8,400

◇ シャープ(株)、協力企業、関連企業の合計(H29.5における総雇用者数) (単位:人)

区分	企業数	雇用者数	備考
総雇用者	23	約 8,400	<雇用形態別> 正社員 約 5,400 派遣、請負等 約 3,000 <地域別> 亀山市内事業所分 約 5,700 鈴鹿以北事業所分 約 1,300 津市以南事業所分 約 1,400
内訳	新規採用者	23	約 5,800 シャープ(株)亀山工場及び協力企業: 約 600
	社内異動者	15	約 2,600
	県内出身者	23	約 6,100 シャープ(株)亀山工場及び協力企業: 約 1,300
	県外出身者	18	約 2,300
新規県内出身常用雇用者	15	約 2,500	シャープ(株)亀山工場及び協力企業: 約 300
29年4月の県内高校新卒採用者	3	31	H16年度以降累計:1,308名

## 2 税 収

### 【調査方法】

シャープ(株)亀山工場、同工場立地に伴い新設又は増設を行った製造業10社(新規立地4社、新規増設2社、既存増設4社)、ユーティリティー関連2社及び物流関連等3社、計16社を対象とし、法人事業税及び法人県民税の額を計上しました。

### 【調査結果】

調査対象とした上記16社の平成28年度県税収入(法人事業税、法人県民税、地方法人特別税)は約8.2億円で、平成16年度以降の税収累計額は、約476.4億円となりました。

※1 「協力企業」:シャープ(株)亀山工場敷地内で操業している企業

※2 「関連企業」:シャープ(株)亀山工場敷地外で操業している県内立地企業

◇ 法人事業税及び法人県民税(法人税割のみ)調定額実績 ※3

(単位:億円)

区分	H15年度		H16年度 (操業)		H17年度		H18年度		H19年度		H20年度	
	立地 企業分 ※4	うち 鈴亀分 ※5	立地 企業分	うち 鈴亀分	立地 企業分	うち 鈴亀分	立地 企業分	うち 鈴亀分	立地 企業分	うち 鈴亀分	立地 企業分	うち 鈴亀分
収入 合計額	33.3	5.5	49.7	14.5	60.3	21.7	65.6	26.3	60.4	20.4	47.7	14.3
16年度以降 累計額			49.7	14.5	110.0	36.2	175.6	62.5	236.0	82.9	283.7	97.2
15年度比 税収増加額			16.4	9.0	27.0	16.2	32.3	20.8	27.1	14.9	14.4	8.8

区分	H21年度		H22年度		H23年度		H24年度		H25年度		H26年度	
	立地 企業分	うち 鈴亀分	立地 企業分	うち 鈴亀分	立地 企業分	うち 鈴亀分	立地 企業分	うち 鈴亀分	立地 企業分	うち 鈴亀分	立地 企業分	うち 鈴亀分
収入 合計額	2.4	1.1	29.1	4.0	40.6	2.0	20.8	3.8	31.4	6.6	24.9	7.7
16年度以降 累計額	286.1	98.3	315.2	102.3	355.8	104.3	376.6	108.1	408.0	114.7	432.9	122.4
15年度比 税収増加額	-	-	-	-	7.3	-	-	-	-	1.1	-	2.2

区分	H27年度		H28年度	
	立地 企業分	うち 鈴亀分	立地 企業分	うち 鈴亀分
収入 合計額	35.3	13.5	8.2	5.6
16年度以降 累計額	468.2	135.9	476.4	141.5
15年度比 税収増加額	2.0	8.0	-	0.1

※3 平成20年度の税制改正により、法人事業税の税率が引き下げられ、その引き下げた部分を新たに創設された地方法人特別税(国税)としているため、平成21年度以降の税収は、地方法人特別税を含めた数字

※4 「立地企業分」: 税収調査の対象としている16社の合計

※5 「うち鈴亀分」: 税収調査対象16社のうち鈴鹿市・亀山市内の企業9社の合計

補足: H29年度に雇用調査を行った全23社のH28年度税収額は9.3億円、うち鈴亀分5.7億円

### 3 製造品出荷額

#### 【調査結果】

① 県全体の製造品出荷額は平成18年に10兆円を超え、堅調に推移してきました。平成21年はリーマンショック等の影響で大幅に減少したものの、平成24年から持ち直し、平成27年(確報値)は10兆8,986億円となりました。

全国順位は、平成18年以降全国9位を維持しています。

② シャープ(柵)亀山工場が平成16年1月に操業を開始して以降、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」の製造品出荷額は、8,725億円(平成15年)から1兆9,434億円(平成26年)と大幅に増加し、平成16年以降、三重県は全国1位となっています。

同期間における「電子部品・デバイス・電子回路製造業」の製造品出荷額の伸びを従業員規模別で比較すると、中小規模(300人未満)の事業所では209%、大規模の事業所(300人以上)では224%となっています。

◇ 三重県における製造品出荷額の推移

(単位:億円)

区分		H15年	H16年 (操業)	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	
製造業合計額		78,039 (100)	87,751 (112)	94,581 (121)	107,885 (138)	116,018 (149)	117,451 (151)	93,746 (120)	
全国順位		10位	10位	10位	9位	9位	9位	9位	
電子部品・デバイス・ 電子回路製造業	製造品出荷額	8,725 (100)	12,491 (143)	13,359 (153)	16,126 (185)	21,761 (249)	23,656 (271)	19,419 (223)	
	全国順位	2位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	
	従業員 規模別	300人 未満	634 (100)	1,133 (179)	1,252 (198)	1,517 (239)	1,731 (273)	2,563 (404)	1,744 (275)
		300人 以上	8,091 (100)	11,359 (140)	12,107 (150)	14,609 (180)	20,030 (248)	21,093 (261)	17,675 (218)

区分		H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	
製造業合計額		97,647 (125)	94,157 (121)	101,370 (130)	104,092 (133)	105,427 (135)	108,986 (140)	
全国順位		9位	9位	9位	9位	9位	9位	
電子部品・デバイス・ 電子回路製造業	製造品出荷額	18,865 (216)	14,061 (161)	15,666 (180)	17,446 (200)	19,434 (223)		
	全国順位	1位	1位	1位	1位	1位		
	従業員 規模別	300人 未満	1,352 (213)	1,815 (286)	2,760 (435)	1,507 (238)	1,325 (209)	
		300人 以上	17,513 (216)	12,246 (151)	12,906 (161)	15,939 (197)	18,109 (224)	

※カッコ内数値は平成15年比(%)

※H27年製造業の産業編データについては、「H28 経済センサス活動調査」で12月25日公表予定

(資料出所:経済産業省「工業統計調査」)

## 参考 亀山市の状況

### (1) 人口の状況(4月1日時点 住基台帳人口及び外国人登録者数の計)

(単位:人)

区分	H13年	H15年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年
人口	47,875	47,919	48,517	48,824	49,110	50,001	50,245	50,404
うち20代	6,578	6,148	6,254	6,380	6,440	6,794	6,719	6,663
うち30代	6,038	6,383	6,740	6,892	7,065	7,306	7,384	7,458
市人口増加率 <H13比>	—	0.1%	1.3%	2.0%	2.6%	4.4%	5.0%	5.3%
県人口増加率	—	0.2%	0.6%	0.4%	0.4%	0.5%	0.3%	-0.1%
20代増加率	—	-6.5%	-4.9%	-3.0%	-2.1%	3.3%	2.1%	1.3%
30代増加率	—	5.7%	11.6%	14.1%	17.0%	21.0%	22.3%	23.5%

区分	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年
人口	50,211	50,001	49,661	49,914	49,800	49,584	49,530
うち20代	6,348	6,010	5,719	5,551	5,263	4,953	4,787
うち30代	7,397	7,224	6,941	6,930	6,705	6,569	6,518
市人口増加 <H13比>	4.9%	4.4%	3.7%	4.3%	4.0%	3.6%	3.5%
県人口増加率	-0.4%	-0.8%	-1.5%	-1.9%	-2.4%	-2.5%	-3.0%
20代増加率	-3.5%	-8.6%	-13.1%	-15.6%	-20.0%	-24.7%	-27.2%
30代増加率	22.5%	19.6%	15.0%	14.8%	11.0%	8.8%	7.9%

※H13、H15は、旧亀山市と旧関町の合算数字を使用(亀山市調べ)

### (2) 財政の状況

(単位:百万円)

区分	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度
歳入額	18,048	17,238	18,332	20,644	20,059	19,202	20,171	24,618
自主財源額	10,855	10,918	10,643	12,798	13,263	13,680	15,632	16,515
地方税額	7,707	7,386	7,175	8,039	10,092	11,000	13,254	14,618
法人市民税	747	475	680	1,073	1,534	1,965	1,765	1,443
固定資産税	3,873	4,011	3,720	4,215	5,654	5,793	7,578	9,117
自主財源割合	60.1%	63.3%	58.1%	62.0%	66.1%	71.2%	77.5%	67.1%
財政力指数(単年)	0.78	0.82	0.78	0.84	1.06	1.15	1.38	1.45
歳入額<H13比>	—	95.5%	101.6%	114.4%	111.2%	106.4%	111.8%	136.4%

(次頁に続く)

区分	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
歳入額	23,621	22,121	20,565	21,542	21,158	21,085	20,237	20,455
自主財源額	18,098	15,485	14,406	14,041	13,463	13,393	13,196	12,809
地方税額	13,884	12,341	11,764	10,348	11,328	10,930	10,634	10,335
法人市民税	564	922	1,194	670	897	900	929	667
固定資産税	9,316	7,706	6,861	5,957	6,670	6,257	5,915	5,867
自主財源割合	76.6%	70.0%	70.0%	65.2%	63.6%	63.5%	65.2%	62.6%
財政力指数(単年)	1.34	1.05	0.97	0.98	0.98	0.97	0.94	0.93
歳入額<H13 比>	130.9%	122.6%	113.9%	119.4%	117.2%	116.8%	112.1%	113.3%

区分	H29 年度
歳入額	21,064
自主財源額	12,678
地方税額	10,203
法人市民税	600
固定資産税	5,801
自主財源割合	60.2%
財政力指数(単年)	0.91
歳入額<H13 比>	116.7%

(資料出所: 亀山市歳入歳出決算書・予算書)

### (3) 製造品出荷額の推移(従業者4人以上)

区分	H13 年	H14 年	H15 年	H16 年	H17 年	H18 年	H19 年	H20 年
製造品出荷額 (億円)	3,589	3,406	3,451	5,957	7,895	8,767	10,920	13,843
事業所数	169	168	162	152	158	143	150	155
製造業従業者数 (人)	7,758	7,953	7,669	9,583	10,206	10,701	12,008	12,438
従業員当たり製造 品出荷額(万円)	4,626	4,283	4,499	6,216	7,736	8,192	9,094	11,130
製造品出荷額 <H13 比>	—	94.9%	96.1%	166.0%	167.2%	244.3%	304.3%	385.7%

(次頁に続く)

区分	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年
製造品出荷額 (億円)	10,115	10,860	6,247	7,637	7,717	10,495
事業所数	142	135	133	124	119	121
製造業従業員数 (人)	10,657	10,523	9,846	9,630	9,498	9,701
従業員当たり製造 品出荷額(万円)	9,491	10,320	6,345	7,930	8,125	10,818
製造品出荷額 <H13比>	281.8%	302.6%	174.1%	212.8%	215.0%	292.4%

※H13年～H16年は旧亀山市と旧関町の合算数値(工業統計調査)

※H27年製造業の市区町村編データについては、「H28 経済センサス活動調査」で12月25日公表予定

#### (4)住宅建築(民間共同住宅)の状況

区分	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度
アパート建築確認 申請戸数(戸)	249	458	583	695	770	282	192
延床面積(㎡)	12,448	20,810	22,310	28,258	33,498	11,357	10,854
戸数累計(戸)	249	707	1,290	1,985	2,755	3,037	3,229

区分	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
アパート建築確認 申請戸数(戸)	34	6	12	16	30	24	16
延床面積(㎡)	1,921	490	1,091	799	1,712	2,604	1,108
戸数累計(戸)	3,263	3,269	3,281	3,297	3,327	3,351	3,367

区分	H28年度
アパート建築確認 申請戸数(戸)	27
延床面積(㎡)	1,651
戸数累計(戸)	3,394

※平成25年度まで亀山市調べ

※平成26年度から四日市建設事務所調べ

## (5) 公共交通機関の状況 (タクシーの状況)

区分	H13年度	H15年度	H16年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
会社数	3	6	6	6	7	6	6	6
台数	25	39	45	51	56	44	40	41

区分	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
会社数	6	5	4	4	4	4	4
台数	40	39	37	37	37	36	36

(タクシー会社への聞き取りによる)

## (6) 物流の状況(亀山IC及び亀山PAスマートIC交通量)

(単位:千台/年)

区分	H13年	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年
亀山IC	17,486	17,478	18,324	18,518	12,737	13,145	13,118	10,185
スマートIC	—	—	—	—	314	459	472	609

区分	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年
亀山IC	9,575	9,283	9,107	9,032	8,994	8,573	8,641	8,608
スマートIC	610	640	628	613	672	607	637	618

(中日本高速道路㈱調べ)

※平成17年3月、伊勢自動車道と東名阪自動車道が直結されました。

※平成17年12月、シャープ㈱亀山工場に至近の亀山PAにスマートインターチェンジが設置されました。

※平成20年2月、新名神高速道路(亀山JCT～草津JCT)が開通しました。

## (7) 宿泊施設の状況

区分		H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年
登録数	ビジネスホテル	1	3	3	5	5	7	7
	国民宿舎	1	1	1	1	1	1	1
	旅館	5	5	5	5	5	5	5
	計	7	9	9	11	11	13	13
室数	ビジネスホテル	85	311	311	612	612	992	992
	国民宿舎	26	26	26	26	26	26	26
	旅館	36	36	36	36	36	36	36
	計	147	373	373	674	674	1,054	1,054
収容人員	ビジネスホテル	88	336	336	689	689	1,308	1,308
	国民宿舎	120	120	120	120	120	120	120
	旅館	107	107	107	107	107	107	107
	計	315	563	563	916	916	1,535	1,535

(次頁に続く)

区分		H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年
登録数	ビジネスホテル	7	7	7	7	7	7	7
	国民宿舎	1	1	1	1	1	0	0
	旅館	5	5	5	5	5	5	5
	計	13	13	13	13	13	12	12
室数	ビジネスホテル	989	989	989	989	989	989	989
	国民宿舎	26	26	26	26	26	0	0
	旅館	36	36	36	36	36	36	36
	計	1,051	1,051	1,051	1,051	1,051	1,025	1,025
収容人員	ビジネスホテル	1,304	1,304	1,304	1,304	1,304	1,304	1,304
	国民宿舎	120	120	120	120	120	0	0
	旅館	103	103	103	103	103	103	103
	計	1,527	1,527	1,527	1,527	1,527	1,407	1,407

(観光レクリエーション入込客数推計書等)

※国民宿舎『関ロジ』 H26年度末から休業、H27年12月運営終了





## (7) 観光振興について

国内外の来訪者から何度でも訪問したい観光地として選ばれ、観光関連産業が三重県経済をけん引する産業となるよう、日本版DMO創設や国内からの誘客、インバウンド誘致、国際会議等MICE誘致、クルーズ船誘致、観光防災等に取り組んでいます。

### 1 日本版DMO

#### (1) 県内DMO候補法人の状況

11月28日に(公社)三重県観光連盟が、地域連携DMOとして「日本版DMO候補法人」に登録されました。同日、(一社)伊賀上野観光協会が、地域DMOとして「日本版DMO候補法人」に登録され、これまでとあわせて7団体となりました。

各DMO候補法人の概要は下記表のとおりです。

#### 〈県内各DMO候補法人の概要〉

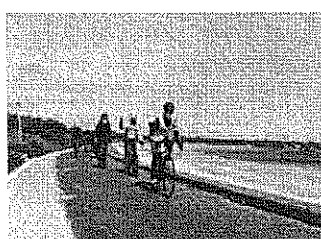
DMO候補法人名	登録日	区域	活動コンセプト
(公社) 三重県観光連盟	平成29年 11月28日	三重県	世界に選ばれた三重～オール三重での誘客と観光地域づくり～
株式会社Verde 大台ツーリズム	平成28年 7月15日	大台町	Link FAN&FUN～奥伊勢へ 仲間をつなぐ ワクワクをつなぐ～
伊勢まちづくり株式会社	平成28年 8月31日	伊勢市	外宮周辺の魅力創造と賑わい創出
(一社) 鳥羽市観光協会	平成28年 8月31日	鳥羽市	海女文化に彩られた漁業と温泉のまち鳥羽
(一社) 志摩スポーツ コミッション	平成28年 8月31日	志摩市	MY CYCLING LIFE in ISE-SHIMA
(一社) 菰野町観光協会 (設立予定)	平成29年 1月20日	菰野町	ちょっと田舎の温泉地
(一社) 相模海女文化 運営協議会	平成29年 5月12日	鳥羽市 相模町	日本一現役海女が多いまちとして、色濃く残る海女文化を体感できるまち
(一社) 伊賀上野観光協会	平成29年 11月28日	伊賀市	忍者(しのび)の里伊賀“忍者観光圏ネットワークルートの構築

#### (2) 今後の方向性

県としては、地域連携DMO(全県DMO)である三重県観光連盟と連携しながら、「マーケティングデータの分析・提供機能」及び「広域プロモーション機能」を発揮することにより、地域DMO等の観光地域づくりを支援していきます。



(大台 スタンドアップパドル)



(志摩 サイクリング)



(伊勢 お伊勢さん観光案内人)

## 2 大都市圏からの誘客促進

### (1) 現在の取組

#### (ア) 三重県観光マッチング商談会

10月に県内の観光関連事業者等と大都市圏の旅行会社との商談会を東京、大阪、名古屋の3会場で開催しました。その結果、4件の旅行商品化が決まりツアー催行につながりました。引き続き、旅行商品化に向け、旅行会社に働きかけを行ってまいります。

東京会場 旅行会社6社、県内事業者等9社参加  
大阪会場 旅行会社8社、県内事業者等11社参加  
名古屋会場 旅行会社8社、県内事業者等14社参加

#### (イ) みえ旅取材相談会

11月22日に東京で、県内の市町と首都圏のメディアとの取材相談会を開催し、県内から10市町とメディア25社とのマッチングを行いました。今後、10社が現地取材を行う予定となっています。

#### (ウ) みえ食旅パスポート

本県の強みである食の魅力を生かした取組として、平成28年6月から「みえ食旅パスポート」を実施しています。平成29年10月末現在のパスポート発給部数は、約32万部に達し、前回パスポートの約1.2倍となっています。

平成29年度上半期（4月～9月）分の県外からの応募者数のうち、関西圏からの割合が約4割と高い結果となりました。また、北海道や九州在住の方からも応募があり、遠方からの来訪者にもパスポートをご利用いただいています。

### (2) 今後の展開

本県への宿泊客の約43%を占めるなど、本県の最大のマーケットである関西圏を対象とし、平成30年1月～3月にウェブ系旅行会社・県内宿泊施設と連携した事業の実施に向け準備を進めています。

SNS等の活用や関西事務所との連携などに取り組み、効果を高めていきます。

## 3 ベトナム・タイに向けての誘客

### (1) ベトナム

11月14日にホーチミンにおいて、急速に増加している訪日ベトナム人の誘客を図るため、日本政府観光局（JNTO）と連携し、現地旅行会社やメディアと今後の本県への誘客の方向性等について意見交換会を実施しました。

知事から、大阪や名古屋などのゴールデンルートと組み合わせやすい三重県の立地と、忍者、なばなの里、アウトレット等、現地で関心の高い観光資源を切り口にプレゼンテーションを行い、三重県を含む旅行商品の造成を要請しました。

また、その際、現地の人気男性アーティストを起用して、三重県で9月に撮影したPR映像の紹介も行いました。

現地旅行会社からは、「三重県は食や景観など多くの魅力にあふれている。特に忍者を活かした観光がおもしろい。」との発言がありました。

場 所:ホテル ニッコーサイゴン (ホーチミン市内)

参加者:(ベトナム側) 現地旅行会社(タガートラベル、ブルースカイトラベルほか)及びメディア 計7社11名

(三重県) 知事、熊野市長、大紀町長 ほか計9名

JNTOハノイ事務所

## (2) タイ

11月15日にはバンコクにおいて、東南アジアで最も訪日旅行者数が多く、インバウンドの最重点国に位置付けているタイから本県へのさらなる誘客を図るため、三重県観光セミナー及び商談会を開催しました。

タイでは訪日旅行のリピーター増加に伴い、大都市以外の地方への訪問意欲が高まっており、三重県への観光旅行者数はここ3年間で約9割増加しています。

三重県観光セミナーでは、知事が、特に、タイ人に関心の高い四季の景観として、御在所岳の雪景色や赤目四十八滝の紅葉、食の魅力として旬の海産物やミカン等を紹介しました。

続いて開催した商談会では、市、県内観光関係事業者等23者と現地旅行会社22者が商談を行い、ビジネス関係の強化を図るとともに県内への旅行商品の造成等を働きかけました。

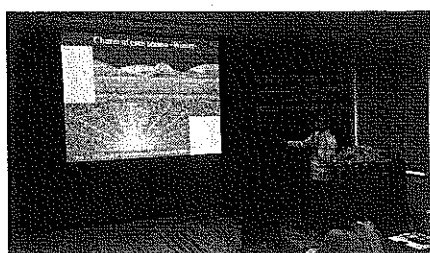
場 所:クラウンプラザバンコク (バンコク都内)

参加者:(タイ側) 現地旅行会社(クオリティ・エクスプレス、ワールド・プロ・トラベル ほか) 計 22者32名

(三重県) 知事

市、県内観光関係事業者等(松阪市、志摩市、伊賀上野観協会、株式会社モビリティランドほか) 計23者27名

JNTOバンコク事務所



(旅行会社トップセールス)



(商談会)

タイでのセミナー・商談会を受けて、12月3日から5日まで、高価格帯・インセンティブツアー造成の意向がある旅行会社3社に、北勢、伊勢志摩、伊賀地域を案内しました。さらに、三重県海外観光特使であるトランザグループとの意見交換会の中で「写真をとりたい場所」が旅行先の決め手となるとのコメントを受け、12月7日から9日まで、トランザグループ3社とタイメディア2社に、なばなの里など県内のインスタグラムで見映えがする景観、体験を案内しました。

### (3) 今後の展開

ベトナムについては、意見交換会に参加した旅行会社等に継続的に観光情報を提供していきます。また、本県を行程に入れた商品の造成意向を示した旅行会社に、情報提供等のきめ細かなフォローを行い、先方の検討状況に応じて県内を案内します。

タイについても、商談会に参加した現地旅行会社の関心事項に応じて個別に詳細な情報を提供します。

このほか、タイで非常に有名な日本人をナビゲータに起用した三重の観光の魅力を紹介したテレビ番組が撮影され、平成30年3月頃現地で放映される予定となっています。

さらに、JNTOと連携し、三重県の観光情報を引き続き発信していきます。

## 4 レップを活用した欧州、台湾からの誘客

### (1) 現在の取組

#### (ア) 欧州（フランス）レップ

11月23日にマルセイユにおいて、フランス南部の旅行会社15社29名に参加いただき、三重県観光セミナーを開催しました。富裕層誘客やインセンティブツアーの誘致に向け、食・文化・自然・アクティビティなどの紹介とともに、忍者・海女衣装体験等を実施しました。

#### (イ) 台湾レップ

インセンティブツアー誘致に向け、現地の旅行会社等を訪問し、三重をツアー行程に組み込んでもらうための詳細な情報提供を行っています。

取組の成果として、9月の500人規模のツアー催行に続き、11月には伊勢湾周遊ツアーが2回催行されました。

### (2) 今後の展開

引き続き、現地旅行会社等に継続的に情報提供するとともに、現地旅行会社等の営業活動から得られた意見や現地ニーズを踏まえたプロモーションを展開します。

フランスについては、今回のセミナーを生かし、本県に関心があり今後の商品造成が期待できる現地旅行会社との関係強化を図るとともに、商品造成に向けた情報提供やファミトリップなどを実施し、誘客につなげていきます。

台湾については、質の高いインセンティブツアーを行う企業等の発掘・誘致に向け、旅行会社や企業にセールス活動を行います。

## 5 国際会議等MICE誘致

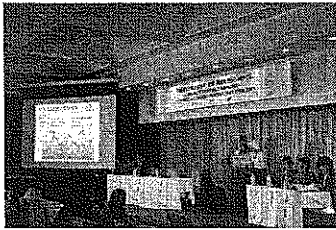
### (1) 現在の取組

MICE誘致については、県職員によるセールス活動とともに、営業委託による県外でのセールス活動により誘致を促進し、MICE開催地としての三重のブランドイメージの確立に向けて取り組んでいます。その結果、伊勢志摩サミット後、これまでに20件の国際会議が開催され、延べ8,804人（うち外国人915人、国内7,889人）が参加しています。

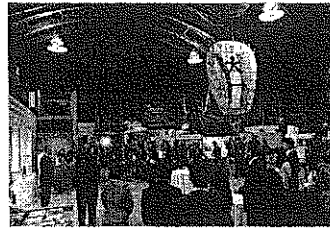
## (ア)「持続可能な観光国際年」記念国際観光シンポジウム

10月17日から19日まで「持続可能な観光国際年」記念国際観光シンポジウムが、「観光業の持続可能な発展における女性の役割」をテーマに鳥羽市で開催され、地元の観光業で活躍する女性たちも参加し、活発な議論が交わされました。

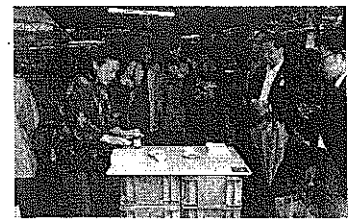
鳥羽マリナターミナルにおいて、鳥羽市と共催した17日夜の歓迎レセプションでは、地元食材をふんだんに使った料理や伊勢志摩サミットで使用された三重の地酒などが参加者に大好評でした。また18日夜には、観光庁主催のレセプションが伊勢志摩ならではのユニークベニューである海の博物館で開催されました。さらに、視察（テクニカルビジット）では、外国人を中心に伊勢神宮（内宮）、おほらい町・おかげ横丁のほか海女文化やエコツアー等を体験いただき、参加者から高い評価を得ました。



(シンポジウム)



(観光庁主催レセプション)



(海島遊民クラブでの体験)

## (2) 今後の展開

「第16回日ASEAN次官級交通政策会合」が平成30年6月下旬に志摩観光ホテルで開催されることが決定しています。

引き続き、県内主催者が国際会議を開催しやすい環境づくりによる開催促進と、セールス活動による県外関係者主催会議の誘致に取り組みます。

## 6 クルーズ船誘致

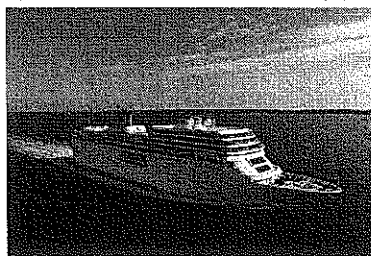
### (1) コスタ ネオロマンチカ四日市港初寄港

県や四日市市、四日市商工会議所、四日市港管理組合などによる「四日市港客船誘致協議会」では、昨年より外国クルーズ船の四日市港寄港に向けた誘致活動を展開してきました。その結果、平成30年1月2日、イタリア船籍の「コスタ ネオロマンチカ」が四日市港に初寄港します。

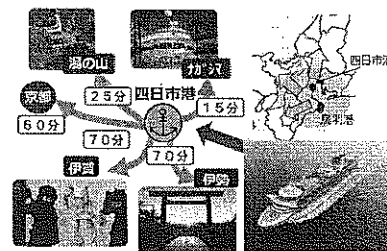
乗船客数（予定）：約1,500名（うち外国人約130名）

おもてなし：歓迎セレモニーの実施、観光案内デスクの設置、近鉄四日市駅までの連絡バス運行

オプションツアー：「伊勢神宮・おかげ横丁」「御在所ロープウェイ・アクアイグニス・四日市諏訪神社」など県内5コース



(コスタ ネオロマンチカ)



(四日市港からのアクセス)

## (2) ダイヤモンド・プリンセス四日市港、鳥羽港初寄港

平成 30 年 6 月以降には、英国船籍の「ダイヤモンド・プリンセス」が四日市港に 5 回、同年 10 月に鳥羽港に寄港します。

四日市港：平成 30 年 6 月 24 日、8 月 26 日、9 月 16 日、10 月 7 日、11 月 4 日

鳥羽港：平成 30 年 10 月 9 日

## (3) 今後の展開

クルーズ船社の「新たに寄港できる港を発掘したい」というニーズの高まりや、県内道路交通網の整備をチャンスと捉え、四日市港、鳥羽港を本県観光の新たなゲートウェイとして、引き続きクルーズ船の誘致を進めていきます。

クルーズ船の受入体制の充実・強化に向け、市町、観光協会、観光関連事業者等などが連携した協議会の 4 月設立をめざしています。そのキックオフとして 12 月 14 日に三重県クルーズセミナーを開催します。

開催場所：三重県総合文化センター

講演内容：訪日クルーズ船の動向や魅力ある寄港地にしていくために必要な取組等について、Costa Crociere S.p.A 日本支社長の糸川氏に講演いただきます。

## 7 観光防災

### (1) 現在の取組

「三重県新地震・津波対策行動計画」（平成 25～29 年）に基づき、観光事業者、市町等と連携した人材育成研修や避難訓練等に取り組んでいます。

7 月に熊野市新鹿で熊野市・観光協会と連携した津波避難訓練を実施し、海水浴客を含む 62 名が参加しました。

12 月 7 日のみえ地震対策の日にあわせて、県内の全市町に観光防災のリーフレットを配布するとともに、10 日には、熊野古道協働会議で観光防災セミナーを開催しました。



(新鹿 避難訓練)

### (2) 今後の展開

観光地の安全・安心を PR できることが、観光地としてのブランド力につながるため、現在策定中の「三重県防災・減災行動計画（仮称）」においても、観光防災を重点取組として位置付け、防災対策部との連携のもと、これまでの成果を生かし、県内全域に展開できるよう取り組んでいくこととしています。

## (8) 各種審議会等の審議状況の報告について

(平成 29 年 9 月 15 日～平成 29 年 11 月 21 日)

(雇用経済部)

1 審議会等の名称	第 12 回三重県観光審議会
2 開催年月日	平成 29 年 10 月 15 日 (日)
3 委員	【会長】 埼玉大学 教授 石阪督規 ほか10名出席
4 諮問事項	① 増加するF I T誘客に向けて ② みんなが泊まりたくなる宿泊施設に向けて
5 調査審議結果	「増加するF I T誘客に向けて」「みんなが泊まりたくなる宿泊施設に向けて」の2項目について審議いただきました。  【主な意見】 ・ どの国のどのような人を対象に海外から誘客するのがよいのか、明確にする必要がある。そのためにも、外国人旅行者の詳細な動向をしっかりと把握する必要がある。 ・ 外国人旅行者が活用するサイトでの三重県情報が少ない。地元の人が利用する飲食店等の情報も外国人旅行者は探しているため、より積極的に口コミ等の発信を促す取組を進めていく必要がある。 ・ 体験を求めている外国人旅行者を呼び込みには、他部局ともしっかりと連携して取り組んでいくべきである。 ・ 海外からの誘客を促進するため、宿泊施設等に対するグローバルスタンダードによる評価を導入する必要がある。 ・ 宿泊施設が提供するサービスの向上のためには、全国の優良事例も参考にしつつ地域全体で取り組んでいく必要がある。
6 備考	





◎報告事項 (1)首都圏営業拠点「三重テラス」について

三重テラスの運営状況について(9月～11月)



- ・オープン以来の来館者数累計は平成29年11月末現在で2,727,385人です。
- ・ショップ、レストラン、イベントスペースにおいて、三重の旬の魅力や季節行事・イベントに対応した情報を発信し、三重への誘客や販路拡大につながる取組を展開しています。

TOPICS

“おかげさま祭”第3弾 秋の収穫感謝祭(10月21日～22日)

日頃から「三重テラス」を支えていただいている方々へ“おかげさま”の気持ちを込めて、「秋の収穫感謝祭」を開催しました。レストラン料理長によるショップで販売している野菜を使った簡単イタリアンレシピの紹介や四日市萬古焼のごはん鍋で炊いた県産の新米のふるまいのほか、舞楽(ぶがく)に関する解説付きで多度雅楽会による雅楽の上演が行われました。〔来館者数 330名〕

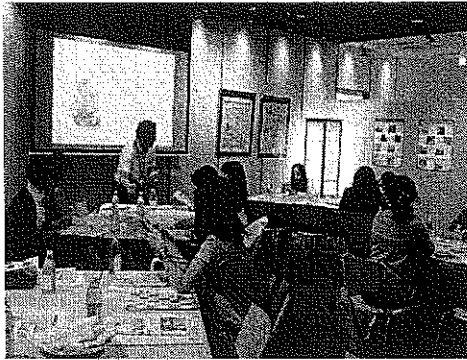


レストラン料理長によるレシピ紹介(10/21)



秋の雅楽の上演(10/22)

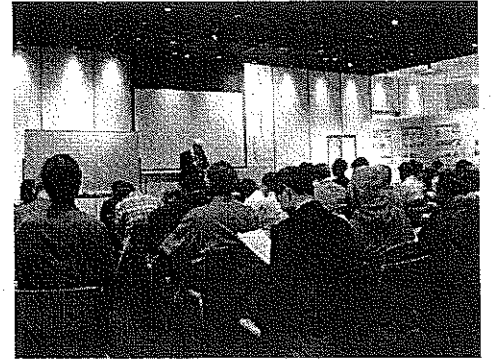
イベントスペース



○秋の旅行は三重で決まり!!  
“みえ食旅”大商談会 (9月7日～9日)  
➢現地スタッフがお客様の旅行スタイルに合った、とっておきの三重の旅を提案するツアーデスクを設置。特別企画として、三重の銘酒「作(ざく)」の蔵元による試飲・販売を実施。〔54名参加〕



○伊勢型紙2017東京展 灯光の彩り (9月16日～18日)  
➢「ザ・コンランショップ」とのコラボ商品でランブシェードに手彫りの伊勢型紙をあしらった創作ランプの展示に加え、型紙の彫り実演や型紙ミニ手帳等の制作体験等を実施。〔525名参加〕



○NIPPONの原点を学ぶ三重の魅力発信セミナー (10月13日)  
➢三重県生涯学習センターと皇學館大学が連携し、本居宣長が完成した国学の特色を紹介しながら、伊勢商人の文化風土が生んだ世界的学問の魅力を発信する講座を開催。〔60名参加〕



○つディ 津市・上富良野町友好都市展 (10月25日～26日)  
➢津市と上富良野町の友好都市提携20周年を記念し、パネルや観光ポスター等で紹介するとともに、両都市それぞれの特産物を持ち寄り物産展を開催。〔440名参加〕



○みえ南部まるごとふるさとカフェ (10月28日～29日)  
➢県南部13市町によるふるさと納税のPRイベント。各市町のふるさと納税産品の試食や産品が当たる大抽選会を実施。〔160名参加〕



○第7回みえフェス 三重の地酒・地ツマミの会 (11月5日)  
➢首都圏に住みながらも三重を愛する若者が集う「みえフェス」。今回は、蔵元によるお酒講座や三重の銘酒で利き酒大会を開催〔60名参加〕

# TOPICS

## ショップ

### 【9月】

- ▶ 4周年記念感謝祭において、お伊勢さん菓子博2017ありがとう！企画「赤福餅の特別販売」を数量限定で実施(9/22~24)
- ▶ 4周年記念感謝祭「真珠WEEK」イベントに合わせて、伊勢志摩産のベビーパールのほか、選りすぐりの真珠製品の特別販売を実施(9/23~26)

### 【10月】

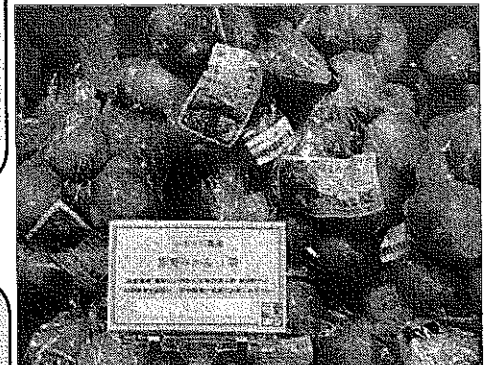
- ▶ マンダリンオリエンタルホテル東京で開催された三重県フェア「テイスト オブ 三重」の期間中、ホテル店舗の一角で、県産の海藻類の加工食品や三重グッドデザインに選定された工芸品等を販売(10/21~11/19)
- ▶ 冬のギフトカタログ「2017冬 三重の贈り物」の申込をスタート(10/23~)

### 【11月】

- ▶ 日本橋三越本店にて開催された「三重展」に出展し、選りすぐりの三重県産品を販売(11/15~20)
- ▶ 旬の農産物を取り揃え、売れ筋の熊野みかん、房どりトマト、国内シェアNo.1のマイヤーレモン等を販売



マンダリンオリエンタルホテルでの特産品販売



旬の農産物の取り揃え



伊勢海老食べ尽くしコース

## レストラン

### 【9月】

- ▶ 地酒のひやおろしや4周年を記念したサミット提供酒飲み比べセットといった特別な地酒を取り揃え

### 【10月】

- ▶ 旬を感じさせる秋メニューをスタート
- ▶ 4周年記念コースをプリフィックススタイル(メイン料理等をいくつかの選択肢の中から選べる)で提供
- ▶ 伊勢海老漁解禁を受け、伊勢海老食べ尽くしコースを期間限定で提供(10/21~28)

### 【11月】

- ▶ ボジョレーヌーボーの解禁日(11/16)に地酒ヌーボーを数量限定で販売
- ▶ ダンデライオンチョコレートとのコラボでチョコレートを使った新カフェメニューを期間限定で提供

# DATA

## 1. 来館者状況

(単位:人)

	25年度計	26年度計	27年度計	28年度計	29年度計 (4~11月)	累計
ショップ	227,655	480,839	569,942	628,545	387,130	2,294,111
レストラン	17,033	34,317	30,581	31,748	19,786	133,465
イベントスペース	30,555	51,365	73,733	82,781	61,375	299,809
合計	275,243	566,521	674,256	743,074	468,291	2,727,385
一日当たり平均	1,521	1,569	1,852	2,047	1,919	1,803

## 2. 売上状況

(税込・単位:千円)

	25年度計	26年度計	27年度計	28年度計	29年度計 (4~11月)	累計
ショップ	60,616	103,695	142,438	149,547	89,217	545,514
レストラン	46,030	96,513	106,107	114,137	66,037	428,825
合計	106,646	200,208	248,546	263,684	155,255	974,339
一日当たり平均	589	555	683	726	636	644

\* 数値は速報値であり、今後修正が生じる可能性があります。

\* 端数処理の関係上、合計が一致しない部分があります。